

大正四年十月八日

中日実業株式会社(尾崎印)

啓者

安徽鉱山之事

九月二十七日附弊書ヲ以テ権利御保護方懇願申上候弊社關係安徽省鐵山ノ件早速御配慮被下候段難有奉鳴謝候本日別紙ノ通り北京總行ヨリノ通知ニ相接シ申候間御閲覽ニ供シ奉リ候先ハ右御礼旁 奄々拜具

(別紙)

大正四年十月一日

北京總行

東京本店御中

右ニ関シ上海小田文博氏態々上京被致小幡書記官ニ陳述被致候事件ニ付本日小幡代理公使ニ面談致候處外務省ヨリ同代理公使ニ宛テ安徽鉱山ハ日本人ノ既得権ニ付充分保護スル様支那外務部へ交渉セヨトノ訓電到来致候為メ代理公使ハ昨日午後外交部ニ至リ曹次長ト會見セラレ逐事情被申述候處曹次長ハ既往ノ事実之詳細ヲ知悉セザルガ故支那当事者ニ就キ事情ヲ聞キ置クトノ回答アリシ由ニテ未タ何等要領ヲ得タル返事モ不有之具合ニ御座候

尚明日小幡代理公使ハ楊士琦氏ト會見ヲ被致其節外務省ヨリノ訓電ヲ示シ充分懇談致ストノ事ニ御座候

先ハ右迄

草々

事項六 滿蒙鉄道借款細目交渉ニ關スル件

(四平街鄭家屯鐵道借款)

四四八 六月十五日 加藤外務大臣ヨリ
在中國日置公使宛(電報)

滿蒙鉄道借款細目交渉再開ニ關シ中國側ノ意

向探知方ノ件

第四二〇号

側ヘ提出済ノ借款契約細目案ニ多少変更ヲ加フルヲ要スル箇所アルモ右ニ付テハ貴官ヨリ交渉再開ニ關スル御見込電報ニ接シタル上ニテ更ニ何分ノ義申進スヘシ

四四九 六月十九日 在中國日置公使ヨリ
加藤外務大臣(電報)

滿蒙鉄道借款細目交渉再開ニ關シ中國側同意

並東清鉄道及南滿鉄道ニ對シ中國督辦派遣申

出ニ付請訓ノ件

第三七六号

貴電第四二〇号ニ關シ六月十八日小田切カ梁交通總長ト会込)丈ヲ至急敷設スルコト致度意向ナリ將又前貸金ニ付テハ客年往電第一三五号ヲ以テ二百万円迄ニ支出方差支ナキ旨御含迄申進タルモ右ハ全線ニ対スル額ニシテ此際ハ差当リ単ニ一部分タル四平街鄭家屯線ニ対スル前貸金ナルカ故ニ成ヘク少額ニテ相濟様致度又愈々交渉再開ト決定セハ金融市場ノ現状其他ノ關係上客年四月十日貴館ヨリ支那

六 滿蒙鉄道借款細目交渉ニ關スル件 四四八 四四九

(續)見シ確メタル所ニ依レハ梁ハ陸夢熊ヲ委員トシテ商議ヲ開外キ差支ナキ旨ヲ答ヘタル由ニ付右ニ御承知相成タシ尚又梁(記)敦彦カ去ル十六日本件ニ關シ袁總統ノ指揮ヲ請ヒタル節袁ハ東清鉄道條約中同鉄道ニ対シ支那政府ヨリ督弁ヲ派遣スル条項ヲ實行シ東清鉄道並ニ南滿州鉄道ニ対シ督弁ヲ派遣スヘキコトヲ梁ニ内命セル趣ニテ同人ハ小田切ニ託シ日本

国政府ノ意嚮確メ方ヲ依頼セル由小田切ハ本使へ申出タリ
本件ニ対スル露國側ノ意嚮ハ未タ之ヲ確メサルモ十数年間
督弁ノ派遣ヲ実行セサル今日斯ノ如キ申出ヲ為スモ取上ク
ヘキ筋ノモノニ無之ヘシトハ思考スルモ小田切ヘ指図ノ都
合モアルニ付一応帝国政府ノ御意嚮承知シ置キタシ

(欄外註記)

〔義ニ支那側委員トシテ任命セラレタルモノニ陸夢熊ノ外蔡序
東及前人鳳ノ両名アリ尚右陸夢熊ハ日本語ニ通セルノ故ヲ以テ
後ニ加ヘラレタルモノナリ〕

四五〇 六月二十九日

加藤外務大臣ヨリ
在中国日置公使宛

満蒙鉄道借款商議ニ閔シ四平街鄭家屯間鐵道

借款契約ノミヲ締結スベキ旨並満蒙鉄道借款

契約細目案修正方訓令ノ件

附 記 满蒙鉄道借款契約細目案規定担保権ノ順位ニ就
テ

政機密送第一一〇号

御承知ノ通り今回満蒙鉄道ニ閔スル商議再開ノ運ト相成候
処現下ノ金融ノ関係其他ヨリ見テ今日客年四月十日支那側
ヘ提出済ノ借款契約細目案第二条ノ甲乙両鐵道全部ニ閔ス

ルル同社ヲシテ之ニ当ラシムルコトト致度ニ依リ其運ト相
成様支那側トノ間ニ話ヲ經メラレ度又(二)前貸金ハ客年往電
第一三五号ヲ以テ二百万円迄ハ支出方差支ナキ旨御含迄申
進置タルモ右ハ申ス迄モナク全線ニ対スル額ニシテ此際契
約締結ト同時ニ交付スヘキ前貸金ハ單ニ一部分タル四平街
鄭家屯線ニ閔スルモノナルカ故ニ往電第四二〇号ノ通り成
ルヘク少額ニテ相済ム様致度當方ニテハ右ハ二十万円位ニ
止メタキ意嚮ニ有之候間之亦御承知置相成度尙前記前貸金
二十万円ハ表面素ヨリ本鐵道資金ノ一部ニハ相違ナキモ本
件鐵道敷設ニ要スル実費以外トシテ支那側ノ自由処分ニ委
ク差当リ公債發行ノ方法ニ依ラサル次第ナルモ前記借款細
目契約案中公債証書又ハ公債募集目論見書等ノ如ク事項ノ
性質上自然公債發行ノ場合ニモ適用アル規定ヲ除キ技
師長、会計主任、運輸主任ニ閔スル規定ヲ始メ其ノ他ノ諸
規定ハ本件借入金ノ場合ニモ適用ヲ見ルヘキハ當然ノ義ニ
付之亦御含ノ上諸事御措置相成度此段申進候也

左記

一、第一条中「金賃公債參千万円」ヲ「金賃公債五百万
六 满蒙鉄道借款細目交渉ニ閔スル件 四五〇

ル借款契約細目ヲ商議スルコトハ到底不可能ニ属シ又往電

第四二〇号ニテ申進シタル通り我方ニテ差向キ取急キ敷設
方希望スルハ最収益ノ見込多キ四平街鄭家屯線(約五十三
哩半)丈ニ止マル義ニ付此際ハ四平街鄭家屯間鐵道ニ閔ス
ル借款細目契約ノミヲ締結シ別ニ右契約中ニ他ノ線路ニ閔
スル細目契約モ同契約ニ準シ追テ協定スルコトノ意味ヲ明
記シ置クコトト致度且又現下金融市場ノ関係上右四平街鄭
家屯線敷設ニ要スル資金ハ差当リ之ヲ公債發行ニ俟ツフ得
サル儀ニモ有之旁前記客年四月十日貴館ヨリ支那側ニ提出
濟ノ借款契約細目案ニ対シ左記ノ通り修正ヲ加フルコトト
致度候間右ノ趣旨篤ト支那当局ニ説示セラレ速ニ本件成立
方御配意相成度將又(一)本件契約ノ協定ニ閔シテハ正金銀行
ヲシテ当事者タラシムルコト曩ニ決定セル所ニシテ貴官御
承知ノ通りナルカ前記満蒙鉄道借款細目契約案第十八条第
一項ニヨレハ正金銀行ニ於テ本鐵道建造中外国ヨリ輸入ス
ヘキ材料機械其他ノ物件ノ購買ヲ掌ル取扱者ヲ指定シ得ル
コトト相成居レルニ付本件鐵道敷設ニ閔シ所要物件ノ購買
取扱者ニハ南滿州鐵道公社ヲ指定スルコトトシ又其他諸般
工事ニ付テモ地理上業務ノ性質上等ヨリ最モ適當ト認メラ

円」ニ改ム

一、第二条ヲ左ノ如ク改ム

本公債募集金ハ四平街ヨリ起リ鄭家屯ニ至ル延長里程
約五十三哩半ノ鐵道ノ建造ニ充ツルモノトス

線路ハ測量完成ノ上本鐵道局長銀行ト之ヲ協定ス

政府ハ鄭家屯ヨリ起リ洮南府ニ至ル鐵道、開原ヨリ起
リ海龍城ニ至ル鐵道及長春吉長鐵道停車場ヨリ起リ南
滿州鐵道ヲ貫越シ洮南府ニ至ル鐵道モ亦銀行ニ由リテ
發行スル公債ヲ以テ建造スルモノトス其細目契約ハ本
契約ニ準シ追テ之ヲ協定スヘシ

一、第三条第二項中「起工ノ開始ヨリ凡ソ五年間」ヲ「起
工ノ開始ヨリ凡ソ二年間」ト改ム

一、第三条ニ左ノ一項ヲ加フ

前項前貸金ハ銀行ノ都合ニ依リ銀貨ヲ以テ之ヲ為スコ
トヲ得

一、第二十四条トシテ左ノ一条ヲ加フ

第二十三条前段ノ公債發行成功不可能ノ場合ハ勿論其
他市場ノ狀況等公債發行ニ有利ナラスト認メタルトキ

ハ政府ト銀行ト協議シテ銀行ヨリ資金ヲ借入レ鐵道建

造ニ着手スルコトヲ得

此借入金ハ公債募集金ヲ以テ優先ニ決済セラルモノ

一切ノ設備材料ノ購買費ヲ含ム) 経営費及建造中ニ於

テ支払フヘキ本借入金ノ利子ニ充ツ

政府ハ右利子ヲ本鉄道建造中ハ本借入金又ハ其他ノ財

源ヨリ完成後ハ先ツ本鉄道収入ヨリ次ニ政府カ適当ト

認ムル其他ノ収入ヨリ期日十四日前ニ之ヲ支払フモノ

トス

政府ハ本借入金ノ元利支払ヲ無条件ニ保証シ本借入金
又ハ本鉄道収入ニシテ本借入金元利支払ニ不足ヲ告グ

ルトキハ政府ハ他ノ財源ヨリ之ヲ補足シ期日十四日前
ニ之ヲ銀行ニ交付スベシ

本借入金ハ現在及将来ニ於テ本鉄道ニ属スル一切ノ動
産及不動産並ニ本鉄道一切ノ収入ニ依リテ第一位ニ担
保セラル

本借入金ハ在上海銀行ニ於ケル本鉄道局勘定ニ繰入ル
モノトシ其残高ニ対シテハ銀行ノ普通ノ率ニ従ヒ利

場合ニハ右両者ハ一部宛同時ニ存スヘシ此場合ニ於テ借入
金及公債カ同一鉄道ニ対シテ孰レモ第一担保権ヲ有ストハ
如何ナル意義ニ解釈スヘキヤノ問題ヲ生ス

一、借入金及公債カ同一鉄道ニ対シ何レモ第一担保権ヲ有
スル旨ヲ或ハ異ナリタル当事者間ニ或ハ異ナリタル時日
ニ於テ各別ノ契約ニテ定メラレタルモノナルトキハ勿論
別問題ナルモ苟モ同一契約中ノ条項ニ於テ斯ル意志ヲ表
示シタルトキハ右ハ其金額ニ応シ按分的ニ夫々第一位ノ
担保権ヲ有スルモノト解釈スヘキモノナルヘシ換言スレ
ハ両者ハ同順位ニ在ルモノト見ルヘク又右第一位トハ両
者以外ノ借款ニ対シ其順位ヲ定メタルモノト解スルヲ至
当トスヘシ

一、借入金及公債ノ有スル担保権カ同一順位ニアルコトヲ規
定スルハ借款資本金カ一部借入金残部公債ニヨルカ如キ等

ノ場合アルヲ当然予期セシムルモノニシテ借入金ガ公債
ニ代ル權宜ノ方法ニ属シ両者何レカ一二拠ルヘキモノナ
ルコトヲ立前トスルニ顧ミ右ノ如キ規定ヲ設クルハ面白
カラズ

一、又解釈上疑問ノ余地ヲ残スヲ避ケル為前記第二十四条
カラズ

(附屬書)

満鉄会社トノ契約案

南滿州鉄道株式会社（以下満鉄ト称ス）ハ大正二年十月五日支那駐劄日本公使ト支那政府外交總長トノ間ニ公文ノ照覆ヲ以テ訂立セラレタル満蒙鉄道借款建設契約大綱並ニ大

正 年 月 日横浜正金銀行（以下銀行ト称ス）ト支那政府（以下政府ト称ス）トノ間ニ締結セラレタル同借款細目契約（以下細目ト称ス）所定ノ四平街ヨリ鄭家屯ニ至ル鉄道線路ノ竣工開通ハ南滿州鉄道本線ノ利益ヲ増進スルモノナルヲ認メ其速成ヲ希望ストモ細目第一条所定ノ公債募

集ノ時機ニアラサルヲ以テ相当資金ヲ政府ニ貸付ケ鉄道ノ建設ヲ進捗セシメンコトヲ銀行ニ提議シ銀行ハ政府財政ノ現状ニ照シ政府ト連帶シテ其元利償還ノ保証ヲ満鉄ニ求メ満鉄ハ之ヲ承認シタルニ付銀行ト満鉄ト双方合意ノ上契約スルコト左ノ如シ

第一条 銀行カ政府ニ貸付クル資金（以下貸金ト称ス）ハ

細目第三条ノ前貸金貳拾万円第二十四条ノ貸付金トシテ四百万円合計四百貳拾万円トス

但銀行ノ都合ニ依リテハ銀貸ヲ以テスルコトヲ得

第二条 銀行カ貸金ノ全部又ハ一部ヲ政府ニ交付スルトキハ其都度之ヲ満鉄ニ通知スルニ付満鉄ハ政府ト連帶シテ元利返済ヲ保証スルモノトス

第三条 細目第二十四条ノ貸付金ノ利息ハ銀行ト政府ト協定シタル割合ニ依ルモノトス

第四条 銀行ニ於テ公債ヲ市場ニ発行シタルトキハ政府金ヲ以テ貸金ノ返済ヲ受ケルモノトス

第五条 銀行ニ於テ公債ヲ市場ニ発行シ得サルトキハ政府ヲシテ本契約調印ノ日ヨリ起算シ第四ヶ年目ヨリ第十二ヶ年目ニ至ル八ヶ年間毎年約金六拾万円ノ公債ヲ発行セシメ満鉄ハ日本駐劄支那公使ト銀行ト協定シタル発行価格（細目第十三条ニ発行価格ヲ取極メタルトキハ其価格）ヲ以テ之ヲ引受ケ銀行ハ此代リ金ヲ以テ政府ヨリ貸

金ノ返済ヲ受クルモノトス

前項ニ依リ貸金ノ年賦返済開始前銀行ニ於テ公債ノ一部ヲ市場ニ発行シタルトキハ先ツ其募集金ヲ以テ政府ヨリ貸金ノ返済ヲ受ケ尚返済ヲ了セサル残額ニ對シテハ政府ヲシテ本契約調印ノ日ヨリ起算シ第四ヶ年目ヨリ貸金ノ完済ニ至ルマテ毎年約金六拾万円（但最後ノ一年ハ六拾完済ニ至ルマテ毎年約金六拾万円（但最後ノ一年ハ六拾

万円以内其當時ニ於ケル貸金残高相当額トス）ノ公債ヲ発行セシメ満鉄ハ日本駐劄支那公使ト銀行ト協定シタル發行価格（細目第十三条ニ発行価格ヲ取極メタルトキハ其価格）ヲ以テ之ヲ引受銀行ハ其代リ金ヲ以テ政府ヨリ返済ヲ受クルモノトス

第一項ニ依リ本契約調印ノ日ヨリ起算シ第四ヶ年目ヨリ

政府ヲシテ毎年約金六拾万円ノ公債ヲ発行セシメ銀行ハ其代リ金ヲ以テ貸金ノ返済ヲ受ケ未タ完済ニ至ラサル以前公債ノ一部ヲ市場ニ発行シタルトキハ其募集金ヲ以テ

貸金残高ノ返済ヲ受ケ尚返済ヲ了セサル残高ニ対シテハ之カ完済ニ至ル迄銀行ハ政府ヲシテ引続キ毎年約金六拾万円（但最後ノ一年ハ金六拾万円以内其當時ニ於ケル貸

金残高相当額トス）ノ公債ヲ発行セシメ満鉄ハ日本駐劄

支那公使ト銀行ト協定シタル発行価格（細目第十三条ニ発行ノ価格ヲ取極メタルトキハ其価格）ヲ以テ之ヲ引受

ケ銀行ハ其代リ金ヲ以テ政府ヨリ返済ヲ受クルモノトストキハ勿論若シ銀行ト政府トト三協定シテ之ヲ変更シタ

第六条 前条ニ拠リ満鉄ニ於テ政府ノ発行スル公債ヲ引受

ケタル場合ニ於テ其発行手数料ノ割合細目ノ所定ニ拠ルトキハ勿論若シ銀行ト政府トト三協定シテ之ヲ変更シタ

六 满蒙鉄道借款細目交渉ニ関スル件 四五一

六 満蒙鉄道借款細目交渉ニ関スル件 四五二

四三八

四五一 七月二十一日 在中国日置公使ヨリ 加藤外務大臣宛

四 鄭鉄道借款細目契約案並修正理由覺書中國

側ニ交付ノ件

附屬書一 四 鄭鉄道借款細目契約案

二

覚書写

機密第二一八号

(七月二十六日接受)

大正四年七月二十一日

在支那

特命全権公使 日 置 益(印)

外務大臣男爵 加藤高明殿

滿蒙鉄道借款契約三閥スル件

滿蒙鉄道ニ對スル借款ノ義ハ現下ノ金融關係ニ顧ミ差當リ
四平街鄭家屯間ニ止ムルコトトシ且右資金ハ當分公債發行
ノ形式ニ拠ラサルコトニ決定セラレタル趣ヲ以テ右ニ閥聯
スル原契約案修正事項ヲ具シ六月二十九日付貴信政機密送
第一一〇号ヲ以テ委曲御訓令ノ趣敬承仍テ早速小田切取締
役ニ旨ヲ含メ御來示ノ通リ原契約案ニ修正ヲ加ヘシムルト
共ニ此機會ヲ以テ客年五月一日付貴信政機密送第一一〇号
御申越之通夫々字句ノ修正ヲモ行ハシメ即チ別紙ノ通日支

(附屬書一)
四 鄭鉄道借款細目契約案
大正二年十月五日即チ中華民国二年十月五日ノ借款大綱ニ
基キ大正四年 月 日即チ中華民国四年 月 日北京ニ於
テ支那政府(以下政府ト称ス)ト日本國横浜正金銀行(以
下銀行ト称ス)トノ間ニ契約スルコト左ノ如シ
第一条 政府ハ銀行ニ五分利付政府金貨公債五百万円ヲ發
行スルノ權限ヲ付与ス
本公司債ハ支那政府五分利付 鉄道公債ト称シ發行ノ日
ヲ以テ其ノ日附ト為ス

第二条 本公司債募集金ハ四平街ヨリ起リ鄭家屯ニ至ル延長
里程約五十三哩半ノ鉄道ノ建造ニ充ツルモノトス

線路ハ測量完成ノ上本鉄道局長銀行ト之ヲ協定ス

政府ハ鄭家屯ヨリ起リ洮南府ニ至ル鉄道開原ヨリ起リ海
龍城ニ至ル鉄道及長春吉長鉄道停車場ヨリ起リ南滿州鉄
道ヲ貫越シ洮南府ニ至ル鉄道モ亦銀行ニ由リテ發行スル

公債ヲ以テ建造スルモノトス其細目契約ハ本契約ニ準シ
追テ之ヲ協定スヘシ

第三条 本公司債募集金ハ專ラ本鉄道線路ノ建造費(土地車
輛及其他一切ノ設備材料ノ購買費ヲ含ム)營業費及建造
中ニ於テ支払フヘキ本公司債利子ニ充ツ

右建造ハ本契約調印後六個月以内ニ起工シ實際起工ノ時
ヨリ凡ソ二年間ニ完成スヘシ前記六個月ノ期間内銀行ハ

本鉄道局長ニ對シ公債募集金勘定ノ第一回払込トシテ金
円ヲ超過セサル金額ヲ局長ノ命ニ依リ日本ニ保管シ又
ハ支那ニ廻送シ本鉄道局ノ使用ニ供スヘキコトヲ通知ス
ヘシ

右ニ拠リ実際前貸セラレタル金額及其ノ利子ハ第一回公
債募集金中ヨリ控除セラルヘク其ノ利子ハ年七分ヲ超過

六 滿蒙鉄道借款細目交渉ニ閥スル件 四五二

四三九

セサルモノトス

前項前貸金ハ銀行ノ都合ニ依リ銀貨ヲ以テ之ヲ為スコト
ヲ得

第四条 本公司債ノ利率ハ額面金額ニ對シ壹個年百分ノ五ト
シ半年毎ニ公債所持人ニ之ヲ支払フモノトシ公債發行ノ
日ヨリ之ヲ起算ス

政府ハ右利子ヲ本鉄道建造中ハ公債募集金又ハ其ノ他ノ
財源ヨリ完成後ハ先ツ本鉄道收入ヨリ次ニ政府力適當ト
認ムル其ノ他ノ収入ヨリ本契約附表所載ノ金額ニ從ヒ公
債發行ノ日ヨリ半年毎ニ計算シ各期日拾四日前ニ支払フ
モノトス

第五条 本公司債ノ期間ハ四拾個年トシ元金ハ公債發行ノ日
ヨリ之ヲ起算シ第拾壹年目ヨリ其ノ償還ヲ始ム

右償還ハ本鉄道ノ收入又ハ政府ノ適當ト認ムル其ノ他ノ
収入ヲ以テ第六条ノ場合ヲ除キ本契約附表所載ノ金額ニ
従ヒ年賦ニ依リ公債發行ノ日ヨリ起算シ各期日十四日前
ニ之ヲ行フモノトス

第六条 本公司債發行ノ日ヨリ拾個年ヲ經過シタル後ハ何時
タリトモ政府ハ本契約附表所載ノ期限ニ達セサル本公司債

兩文ノ新契約案作成ヲ了シ昨二十日同取締役ヲシテ別紙修
正理由覺書ト共ニ交通部委員ニ交付セシメ候間右様御了知
相成度候尚其際同委員ハ篤ト契約案查閱ノ上數日内ニ交渉
ヲ開始スヘキ旨言明シタル趣ニ候間今後ノ經過ニ付テハ隨
時報告ニ及フヘク候得共細目ニ閥シテハ直接交渉ノ任ニ當
ル小田切取締役ヨリ本店ニ稟報シ本店ヨリ更ニ本省並ニ当
藏省等ノ意向ヲ伺ハシムル方事ノ進捗上得策ナルヘシト存
シ大体右ノ方針ヲ執ルコトニ同取締役ト打合置候間此儀モ
御含置相成候様致度此段申進候也

未償還額ノ全部又ハ一部ヲ臨時ニ償還スルコトヲ得此場合ニ於テハ第弐拾年目迄ハ額面百分ノ式半ノ割増即チ金壱百円ニ付金壱百零弐円五拾錢ヲ支払ヒ第弐拾老年目以後ハ割増ナシニ之ヲ行フコトヲ得

前項臨時償還ノ場合ニ於テハ政府ハ六個月以前ニ書面ヲ以テ之ヲ銀行ニ通知スヘシ

臨時償還ハ本公債募集目論見書ニ定メタル普通償還抽籤ノ当日追加抽籤ヲ以テ之ヲ行フモノトス

第七条 政府ハ銀行ヲ本公債事務ノ取扱者ニ指定シタルニ付本契約附表所載ノ金額ニ従ヒ各期日拾四日前三第四条及第五条所載ノ元利金ヲ銀行ニ交付スヘシ

政府ハ第六条ニ規定セル臨時償還ノ場合ニ於テモ亦期日拾四日前ニ必要ノ元金及割増金ヲ銀行ニ交付スヘシ

前二項ノ場合ニ於テハ政府ハ日本ニ於テ金貨ヲ以テスル交付額相当ノ上海規銀又ハ新國幣（斯ノ如キ貨幣カ有効ニ確立セラレタル時ニ限ル）ヲ在上海銀行ニ支払フモノトス政府ハ支払ノ当日又ハ期日前六個月内何時ニテモ銀行ト右為替相場ノ取極ヲ為スコトヲ得

若政府力特ニ右目的ノ為メ支那ヨリ送金シタルモノニア

証書ハ日支両国語ヲ以テ之ヲ印刷シ局長ノ署名及官印ヲ印写ス又日本駐劄支那公使ハ公債証書發行ニ先チ各証書ニ署名及官印ヲ印写セシメ以テ公債ノ發行カ政府ノ許可ニ依ルコト及政府ヲ拘束スルコトヲ証明シ銀行モ亦本公債發行取扱者トシテ其ノ代表者ヲシテ証書ニ署名セシムヘシ

本公債証書ニシテ紛失滅失シ又ハ盜取セラレタルトキハ銀行ハ直ニ局長及日本駐劄支那公使ニ通知シ關係國ノ法律習慣ニ從ヒ必要又ハ便宜ト認ムル措置ヲ執ルヘシ

第十二条 政府ハ本公債証書並利札及本公債元利金ノ受払ニ關シテハ本公債期間中一切ノ公課ヲ免除ス

第十三条 公債募集目論見書及元利金支払其ノ他ニ関スル詳細ノ事項ニシテ本契約ニ明文ナキモノハ銀行ニ於テ日本駐劄支那公使ト協定スヘシ

銀行ハ第十三条ノ規定ニ從ヒ本契約調印次第本公債募集目論見書ヲ發行スルコトヲ得

政府ハ日本駐劄支那公使ニ対シ必要ニ応シ銀行ト協力スルコト及本公債募集目論見書ニ署名スルコトヲ訓令スヘシ

ラサル金資金ヲ善意ニ日本ニ所有スルトキハ各期日拾四日前ニ之ヲ前記支払ニ充ツルコトヲ得

銀行ハ本公債元利金支払ノ費用ニ充ツル為メ其ノ取扱金額ニ對シ毎回千分ノ式半ノ手數料ヲ受クルモノトス

第八条 政府ハ本公債ノ元利金支払ヲ無条件ニ保証シ本公債募集金又ハ本鉄道收入ニシテ本公債元利金支払ニ不足ヲ告クルトキハ政府ハ他ノ財源ヨリ之ヲ補足シ期日拾四日前ニ之ヲ銀行ニ交付スヘシ

第九条 本公債ハ現在及将来ニ於テ本鉄道ニ属スル一切ノ動産及不動産並本鉄道一切ノ収入ニ依リテ第一位ニ担保セラル

第十一条 第一項ノ規定ニ基キ發行セラルヘキ公債モ亦前項ノ動産不動産及収入ニ依リ本公債ト同順位ニ於テ担保セラル

本公債ノ担保ハ之ヲ前二項以外ノ債務ノ担保ト為シ又ハ之ヲ損傷スルノ虞アル措置施設ヲ為スコトヲ得ス

第十二条 銀行ハ本公債全額ニ對シ銀行ニ於テ適宜定ムル額面金額ノ公債証書ヲ發行スルコトヲ得其ノ様式ハ銀行ニ於テ本鉄道局長又ハ日本駐劄支那公使ト之ヲ協定ス公債

第十三条 銀行ハ工事ノ計画並ニ其ノ進行ノ程度及市場ノ狀況ニ応シ本公債ヲ一回ニ又ハ數回ニ分チ發行スルコトヲ得

政府手取額ハ發行手數料トシテ發行価格ヨリ額面ノ百分ノ五半ヲ控除シタルモノトス

第十四条 本公債募集金ハ公債応募者ノ分割払込額及其ノ期日ニ従ヒ在横濱銀行ニ於ケル本鉄道局勘定ニ繰入ルルモノトス横濱ニ於ケル該勘定残高ニ對シテハ年参股支那ニ送金シタルモノノ残高ニ對シテハ銀行ノ普通ノ率ニ従ヒ利子ヲ付ス本公債募集金並其利子ハ其ノ中ヨリ鉄道建造中ニ於ケル本公債利子支払及其ノ取扱手數料ニ要スル金額ヲ控除シタル後銀行ハ之ヲ保管シテ本鉄道局長ノ指図ヲ待ツ局長ニ於テ金円以上ヲ引出サントスルトキハ其引出期日拾日前ニ之ヲ銀行ニ通知スヘシ

本公債募集金ハ鉄道建造ノ進行ニ伴ヒ支払ヲ要スル工事ノ性質及費用ノ証明書ヲ添付セル局長及会計主任連署ノ銀行宛支払命令ニ依リテ之ヲ引出スモノトス

建造費毎月見積高ニ對スル資金ハ局長ノ請求次第上海二送金セラルヘシ右送金ハ銀行之ヲ取扱ヒ本鉄道ノ用途

ニ供セラル迄在上海銀行ニ於ケル預金タルモノトス
会計主任ニハ日本人ヲ以テ之ニ充テ局長ニ於テ銀行ノ承
諾ヲ得テ之ヲ任命ス其ノ傭聘契約ハ局長ニ於テ銀行ト協
議ノ上之ヲ定ム

会計主任ハ会計部所要内外人員表ヲ局長ニ提出シ局長之
ニ依リテ任命ヲ行フ会計主任ハ右人員各自ノ分担事務ヲ
定ム

会計主任ハ本公司債期間内局長又ハ副局長ノ命ヲ承ケ本鉄
道ニ閲スル一切ノ收支ヲ管理シ且本鉄道ニ閲スル支出ニ
付一切ノ書類ニ副局長ト連署ス

本鉄道ニ閲スル諸勘定ハ会計主任指揮ノ下ニ新式西洋簿
記法ニ拠リ日支両国語ヲ以テ記帳スヘシ

鉄道局ハ其ノ営業開始後毎年度終了後ニ於テ日支両国語
ヲ以テ決算報告書ヲ刊行シ請求ニ応シ之ヲ交付スヘシ

第十五条 本公司債募集金並其ノ利子ニシテ建造中ニ要スル
本公司債利子ヲ控除シタル後本鉄道ノ建造及設備ヲ完成ス
ルニ不足ナルトキハ政府ハ他ノ財源ヨリ右不足額ヲ支出
ス若シ尚不足ヲ告クルニ於テハ銀行ニ由リテ発行スル公
債ヲ以テ之ヲ補足スヘク其ノ利子其ノ他ノ条件ハ本契約

ニ於ケルト同一タルヘシ
本鉄道完成後本鉄道局勘定ニ使途ヲ有セサル預金残高ア
ルトキハ之ヲ第十七条ニ規定セル公債利子準備金勘定ニ
振替ヘ以テ政府カ本契約ニ依テ義務ヲ負フ支払ノ準備ト
ス

第十六条 本鉄道ノ建造及管理ハ一切政府ニ於テ之ヲ行フ
モノトス

政府ハ本鉄道局長一名ヲ任命ス局長ハ常ニ本鉄道線路所
在地ニ居住シ政府ヲ代表シテ本契約ノ規定ニ依リ本鉄道
ニ閲スル事務ヲ行フノ全権ヲ有ス

技師長ニハ日本人ヲ以テ之ニ充テ局長ニ於テ銀行ノ承
諾ヲ得テ之ヲ任命ス其ノ傭聘契約ハ局長ニ於テ銀行ト協議
ノ上之ヲ定ム技師長ハ局長又ハ副局長ノ命ヲ承ケ本鉄道
線路ノ測量設計及見積ヲナシ且一切ノ工事ヲ指揮監督シ
並鉄道建造ニ必要ナル材料機械其ノ他ノ物件ノ注文ヲ為
ス

技師長ハ技術部所用内外人員表ヲ局長ニ提出シ局長之ニ
依リテ任命ヲ行フ技師長ハ右人員各自ノ分担事務ヲ定ム
技師長ハ局長又ハ副局長ヨリ内外専門技術員ノ任免及其

ノ事務ノ分担ニ付必要ナル措置ヲ執ルノ権限ヲ付与セラ
ルヘシ

本鉄道ノ各区域ハ其ノ完成スルニ從ヒ技師長ヨリ之ヲ局
長ニ引渡シ局長ハ事情ノ許ス限り速ニ当該区域ノ運輸ヲ
開始スルモノトス

局長ハ銀行ノ承諾ヲ得テ日本人一名ヲ運輸主任ニ任命ス
運輸主任ハ局長又ハ副局長ノ命ヲ承ケ運輸ヲ掌ル

本鉄道ノ工事完成シ技師長ノ任務終了シタル場合ニハ局
長ハ銀行ノ承諾ヲ得テ更ニ日本人一名ヲ保線技師ニ任命
ス保線技師ハ局長又ハ副局長ノ命ヲ承ケ鉄道ノ保存ヲ掌
ル運輸主任及保線技師ノ傭聘契約ハ局長ニ於テ銀行ト協
議ノ上之ヲ定ム

第十七条 本鉄道収入ハ遲滯ナク之ヲ銀行ニ於ケル本鉄道
局勘定ニ払込ミ場合ニ応シ定期預金又ハ当座預金トシテ
其ノ利率ハ隨時銀行ト協議シテ之ヲ定ム

本鉄道營業費及保存費ハ總テ右収入ヨリ支出シ其ノ残額
ハ之ヲ本公司債利子支払並本契約附表ニ依ル元金償還ニ對
スル相當準備ニ充テ尚剩余アルトキハ政府ハ本鉄道局長
ノ決スル方法ニ從ヒ之ヲ使用スルコトヲ得ヘシ但鉄道全

部開通後ハ本契約附表ニ依リ元利金ヲ支払フニ足ル金額
ヲ前記剩余金ヨリ控除シ各期日六個月前ニ之ヲ銀行ニ預
入ルヘシ

若シ鉄道収入ニシテ元利金ヲ支払フニ足ル剩余金ナキト
キハ本契約第八条ノ規定ニ從フ

第十八条 銀行ハ本鉄道建造中外国ヨリ輸入スヘキ材料機
械其ノ他ノ物件ノ購買ヲ掌ル取扱者ヲ指定ス
右購買中其ノ重要ナルモノニ付テハ本鉄道局長ニ於テ之
ヲ入札ニ附ス取扱者ハ鉄道ノ為最有利ナル条件ヲ以テ右
購買ノ入札約定又ハ注文ヲ為シ購買原価及其ノ百分ノ五
ノ取扱手數料ヲ受ク但注文及費用ノ支出ニ付テハ技師長
ヨリ局長ニ申請シ其ノ認可ヲ受ケタル後ニアラサレハ之
ヲ行フヲ得ス

取扱者ハ前記手數料ノ支払ヲ受クルニ因リ鉄道ノ建造設
備ニ必要ナル一切ノ外國材料ノ購買ヲ監督シ一般市場ニ
就キ價格最低ニシテ品質良好ナルモノヲ購買スヘシ右購買
賈料ニシテ支那ニ到着後注文明細書ニ符合セサルトキ
ハ鉄道局ハ之ヲ拒絶スルコトヲ得ルモノトス

外國材料機械其ノ他ノ物件ヲ購買スルニ當リ其ノ品質仙

格同一ナルトキハ最先ニ日本品ヲ次ニ取扱者ノ推薦スル
國ノモノヲ購買スヘシ

送状及検査人証明書ハ之ヲ鐵道局ニ提出シ各種ノ割戻及
割引ハ鐵道局ニ帰ス

取扱者カ鐵道ノ為ニスル購買ニ付テハ總テ製造者ノ送状
及検査人証明書ヲ以テ証憑トナス

取扱者ニ対シテハ前記取扱手数料ノ外別ニ手数料ヲ支給
セス但顧問技師ヲ聘用スル場合ニハ鐵道局ハ本鐵道局勘
定ヨリ其ノ報酬ヲ支給スヘシ

若シ支那産材料及支那製品ニシテ其ノ品質価格同一ナル
トキハ支那産業獎勵ノ為最先ニ之ヲ購買スヘシ右購買ニ
付テハ取扱者ニ取扱手数料ヲ支給セス

取扱者ハ本鐵道建造完成後ニ於テモ本公債期間中ハ鐵道
局所要外國品ノ供給ニ關スル取扱事務ニ対シ優先權ヲ有
スルモノトス其ノ取扱条件ハ追テ之ヲ協定スヘシ

第十九条 政府ハ本鐵道局所要ノ材料機械其ノ他ノ物件ニ
対シテハ關稅釐金其ノ他右ニ類スル一切ノ公課ヲ免除ス
第二十条 政府ニ於テ外債ニ依リ洮南府ヨリ承德城ニ至ル
鐵道及海龍府ヨリ吉林省城ニ至ル鐵道ヲ建造セントスル

無効トス此場合ニ於テ政府ハ本契約第三条ニ依ル前貸金

第二十四条ノ借入金ニ利子ヲ付シテ返済スル外銀行ニ対
シ別ニ何等ノ報償ヲ与ヘサルモノトス

第二十五条 第二十三条前段ノ公債發行成功不可能ノ場合

ハ勿論其ノ他市場ノ狀況等公債發行ニ有利ナラスト認メ
タルトキハ政府ト銀行ト協議シテ銀行ヨリ資金ヲ借入レ
鐵道建造ニ着手スルコトヲ得

此借入金ハ公債募集金ヲ以テ優先ニ決済セラルモノト
ス

此借入金ハ專ラ本鐵道線路ノ建造費（土地車輛及其ノ他
一切ノ設備材料ノ購買費ヲ含ム）營業費及建造中ニ於テ

支払フヘキ本借入金ノ利子ニ充ツ

政府ハ右利子ヲ本鐵道建造中ハ本借入金又ハ其ノ他ノ財
源ヨリ完成後ハ先ツ本鐵道収入ヨリ次キニ政府カ適當ト
認ムル其ノ他ノ収入ヨリ期日十四日前ニ之ヲ支払フモノ
トス

政府ハ本借入金ノ元利支払ヲ無条件ニ保証シ本借入金又
ハ本鐵道収入ニシテ本借入金元利支払ニ不足ヲ告クルト
キハ政府ハ他ノ財源ヨリ之ヲ補足シ期日十四日前ニ之ヲ
トス

場合ニハ該外債ニ關シ銀行ニ優先權ヲ与フルモノトス
第二十一条 政府ニ於テ今後有利又ハ必要ト認ムル本契約
所載鐵道線路ノ支線又ハ延長線ヲ建造セントスル場合ニ
ハ政府ハ支那ノ財源ヨリ生シタル資金ヲ以テ之ヲ為スヘ
ク若シ外債ニ依リ之ヲ建造セントスルトキハ銀行ニ優先
權ヲ与フルモノトス右支線又ハ延長線ノ里程ハ政府之ヲ
決定ス

其ノ他本鐵道ニ關スル一切ノ外債ニツキ政府ハ銀行ニ優
先權ヲ与フルモノトス

第二十二条 銀行ハ公債証書所持人ノ受托者タルモノトス
從テ本公債ニ關スル事項ニツキ鐵道局ト銀行トノ間ニ交
渉ヲナス場合ニ於テハ銀行ハ公債証書所持人ノ代理人タ
ルヘン

第二十三条 本契約調印後公債募集日論見書發行前若シ市
場及支那政府現存公債ノ市価ニ影響スヘキ政治上又ハ經
濟上ノ事變發生シ銀行ニ於テ本契約ノ条件ニテハ本公債
發行ノ成功不可能ナルヲ認メタル場合ニハ銀行ハ政府ト
協定スル相當期間本契約ノ履行ヲ延期スルコトヲ得若シ
右期間内ニ仍ホ其ノ發行ヲ見サルニ於テハ本契約ハ之ヲ
要ス

銀行ニ交付スヘシ

本借入金ハ現在及将来ニ於テ本鐵道ニ屬スル一切ノ動產
及不動產並本鐵道一切ノ収入ニ依リテ第一位ニ担保セラ
ル

本借入金ハ在上海銀行ニ於ケル本鐵道局勘定ニ繰入ルル
モノトシ其殘高ニ對シテハ銀行ノ普通ノ率ニ從ヒ利子ヲ
付ス局長ニ於テ一時ニ銀行ニ通知スルト
キハ其ノ引出期日拾日前ニ之ヲ銀行ニ通知スヘシ

本借入金ハ鐵道建造ノ進行ニ伴ヒ支払ヲ要スル工事ノ性
質及費用ノ証明書ヲ添付セル局長及會計主任連署ノ銀行
宛支払命令ニ依リ之ヲ引出スモノトス

第二十五条 銀行ハ本契約ニ依リ享有スル權利ノ全部又ハ
一部ヲ再讓渡又ハ複委任ノ權利及其ノ負担スル義務ト共
ニ他ノ日本人ニ讓渡シ又ハ委任スルコトヲ得但右讓渡再
讓渡又ハ委任複委任ハ本鐵道局長ノ承認ヲ受クルコトヲ
要ス

第二十六条 銀行ハ本公債ノ流通ニ便ナラシムル為証書ニ
額面金額相当ノ一定英貨額仮貨額又ハ米貨額ヲモ記載シ
並日支両國語ノ外英語又ハ仏語ヲ以テ之ヲ印刷シ且倫敦

巴里又ハ紐育ヲ本公司債元利金支払地ト為スコトヲ得
銀行ハ市場ノ都合ニ依リ本公司債ノ全部又ハ一部ヲ倫敦巴
里又ハ紐育ニ於テ發行スルコトヲ得
本契約中前記二項ニ関連スル各条ハ右二項ノ場合ニ於テ
ハ夫々必要ノ変更ヲ受クルモノトス

第二十七条 本契約ハ大正四年月 日即チ中華民国四年月 日大總統令ニ準拠シテ調印シタルモノニシテ右大總統令ハ外交部ヨリ公式ニ支那駐劄日本公使ニ通告ヲ経タリ

シ其ノ内各三通ヲ政府ニ各一通ヲ銀行ニ保存ス本契約ノ
解釈ニ關シ疑義ヲ生シタル場合ニハ日本文ヲ以テ之ヲ決
ス

五

黨書

ノ戰乱發生シ全世界ノ金融市場ハ重大ノ影響ヲ蒙ムリ該鉄
目案ハ昨年四月提出セラレタルモ未タ幾モナラスシテ歐州
満蒙五路ノ大綱ハ一昨年十月協定セラレ右ニ関スル契約細

ニシテ亦民国路政ノ為取ラサル所也

凡ソ路工ハ必ス先ツ一定ノ計画ヲ立テ之ニ要スル資金ヲ確
実ニ籌備シ而後着々事業ヲ進行シ中途間断セス予定ノ期限
ニ於テ目的ヲ貫徹セサル可ラス之ニ反シ当初計画粗漏ニシ
テ資金ノ籌備亦確実ナラサル時ハ中途停工ノ已ムヲ得サル
ニ至リ無用ノ経費ヲ徒靡シ利息ノ負担ヲ増加シ收入ノ違算
ヲ生シ当事者ノ損害甚大ナルハ今更契説ヲ須キサル所也
因テ本行ハ不敢此際十分ノ成算ヲ有スル額面五百萬円ノ

ヲ以テ前記線路ノ建設ニ着手シ而シテ其他ノ線路ニ至リテ
ハ他日金融事情ノ融和ニ伴ヒ契約ニ準拠シ漸次募債シテ繼
続進行スルコトヲ両方面ノ利益ナリト認メ而カモ万一意外
ノ事件発生シテ右五百万円ノ募債ニ影響ヲ与エ隨テ重要ナ
ル路工ニ障碍ヲ來サンコトヲ恐レ之ニ対スル予防トシテ其
際一時ノ借款ヲ以テ此障碍ヲ排除セントスル考案ヲ有セリ
此ノ如クシテ一定ノ計画始メテ立チ必要ノ資金始メテ把握
アリト謂フヘシ

茲ニ交付スル所ノ契約細目新案ハ即チ前記ノ主旨ニ基ツキ立案セラレタルモノニシテ之ヲ昨年提出セル旧案ニ比スレ

六 満蒙鉄道借款細目交渉ニ關スル件 四五二

| | |
|-----------------------|---|
| 第五条第三項 | 右償還ハ第六条ノ場合ヲ除キ本鉄道ノ収入又ハ政府ノ適當ト認ムノ收入ヲ以テム其ノ他ノ収入ヲ除キ |
| 第六条第二項 | 第二十年以後ハ |
| 第七条第三項 | 上海規銀又ハ |
| 第八条 | 募集金又ハ |
| 第四項 | 技師長ハ。建設。 |
| 第五項 | 募集金又ハ |
| 第十八條第二項 | 上海規銀又ハ |
| 第十六條第三項 | 募集金又ハ |
| 第一項 | 技師部 |
| 第二十三條 | 専門技術員 |
| 本契約第三条ニ依ル前貸金二 | 取扱者ハ外國品ノ入札約定又ハ注文ノ場合ニ於テ鉄道ノ為最有利ナル条件ヲ以テ購買ヲ為シタル |
| 本契約第三条ニ依ル前貸金第二十四条ノ借入前 | 利ナル条件ヲ以テ右購買ノ入札約定又ハ注文ヲ為シ |

昨年提出セル契約細目旧案ハ公債発行ニ因テ得タル資金三千万円ヲ以テ該路ヲ建造セントスル主旨ヲ以テ立案セラレタルモノナリ然ルニ現在ノ情況ニ照ラシ実際ノ効果ヲ考フルニ今日右金額ヲ一時ニ発行スルコトノ不可能ナルハ何人ト雖モ想到シ得ル次第ニシテ仮リニ該公債ヲ數次ニ分チ之ヲ市場ノ情形ニ応シ逐次発行スルモノトスルモ其分割發行額カ比較的巨多ナルカ為一次ノ募集ハ兎ニ角次回以後ニ於ケル發行ニ関シテハ到底十分成効ノ成算ナシ是時ニ當テ仍ホ旧案ヲ株守シ前記ノ額数ヲ憑空憶記シ一時ヲ糊塗シ去ラントスルハ信用アル実業家ノ為スラ欲セサル所ナルノミナラス此ノ如キ空想ノ下ニ事業ヲ計画スルハ甚タ危険ノ処置

旧案第二十五

新案第二十六

条第一項

仮貨額及
仮貨額又ハ 英語又

ハ 巴里又ハ 英語又

巴里及
巴里又ハ

巴里又ハ

第二項

巴里又ハ

巴里又ハ

四五三 九月十九日 在中国小幡臨時代理公使宛(電報)

大隈兼任外務大臣ヨリ
在中國日置公使宛(電報)

四五〇四号

四鄭鐵道借款契約並附屬書ハ十二月十七日彼我代表者ノ間

ニ調印ヲ了セリ尚外交部ヨリ同日附公文ヲ以テ右契約ハ本
月十六日大總統ノ批准ヲ了シ同日調印スヘキ旨正式ニ本使
ヘ照会シ越セリ四五五 十二月二十日 在中国日置公使ヨリ
石井外務大臣宛

四鄭鐵道借款契約調印済ニ閔シ報告並陸總長

トノ間ノ往復書翰写送付ノ件

附屬書一 陸外交總長ヨリ日置公使宛書翰写

二 日置公使ヨリ陸外交總長宛返翰写

四五四 十二月十八日 在中国日置公使ヨリ
石井外務大臣宛(電報)

四鄭鐵道借款契約並附屬書ニ閔シ調印済報告

ノ件

第五三三号

在貴地小田切取締役発正金銀行本店宛電報ニ拵レハ交通部
ハ我方ノ主張ノ通り契約案審議ニ同意シタルモ同案第二條
第二項第九条第三項、第十九条第二十条及第二十二条ヲ削
除シ第二十四条ハ第三項以下各項ヲ削除シ別ニ契約作成方
ヲ主張シタル趣ニ付大蔵省側ノ同意ヲ得タル上第二条第三
項(小田切取締役來電ニハ第二項トアルモ右ハ第三項ノ誤
ト認ム)第九条第三項第十九条及第二十条ノ削除ニハ異議
ナキモ右ノ内第二条第三項及第二十条ニ閔シテハ別ニ契約
作成方精々主張シ結局已ムヲ得サレハ譲歩シ差支ナク第二

附 記 大正五年一月七日付武内正金銀行總支配人代
理ヨリ石井外務大臣宛書信
附記附屬 四洮鐵道借款交渉始末報告写
機密第三八二号 (十二月二十八日接受)

大正四年十二月二十日

在支那

特命全權公使 日 置 益(印)

外務大臣男爵 石井菊次郎殿

四鄭鐵道借款契約調印済ニ閔シ報告ノ件

乙各写ニテ御閲悉相成度此段報告申進候也

註 別紙調印済四鄭鐵道借款契約及附件写並附屬往復文書写省
略ス後掲四五六文書參看

(附屬書一)

甲号写

陸外交總長ヨリ日置公使宛書翰写

照 会

外交總長陸

照会事三年四月十日准

為

貴館函称上年十月五日訂立借款修造鐵路予約之弁法大綱

内所述本国資本家一節現准本国政府來報稱橫浜正金銀行

願充此項資本家等語請介紹該行駐京代表小田切君向交通

部開商細目合同等因當經轉達交通部派員與該代表節次會

商業將四鄭鐵路借款合同及附件議定由財政部交通部於本

月十六日將此項合同等件呈奉

大總統批准現定於本日正式簽字相應按照該合同第二十五条

備文照会

貴公使查照須至照会者

附屬文書ノ交換ニ關シテハ何等言及無之斯クテハ後日或ハ
故障ヲ生スルノ虞ナキヲ保シ難クト被存候間本使ヨリノ回
答中ニ右往復文書ノ存スル次第附記致置候委細ハ別紙甲

六 满蒙鐵道借款細目交渉ニ閔スル件 四五五

大日本国欽命駐華全權公使日置

中華民国四年十二月十七日

(附屬書二)

乙号写

日置公使ヨリ陸外交總長宛返翰写

第一二三号

以書翰致啓上候陳者貴歷民國四年十二月十七日附商字第一

七八号貴翰ヲ以テ横浜正金銀行代表者小田切万寿之助ト交通部トノ間ニ会商議定ヲ経タル四鄭鐵道借款契約及附件ハ

本月十六日大總統ノ批准ヲ了シ同日調印セラレタルニ付該契約第二十五条ノ規定ニ基キ右ノ次第公式ニ本使ヘ通告スル旨御照会ノ趣意悉致シ候尙ホ我方代表者ニ於テハ本件ニ關シ契約並ニ附件ニ調印セル外交通部トノ間ニ都合十八通ノ附屬文書ヲ交換シタル旨本使ヘ申出有之候間左様御承知置相成度此度照復得貴意候 敬具

大正四年十二月十八日

大日本帝国特命全權公使 日 置 益

支那共和国外交總長 陸徵祥殿

(附 記)

外務大臣男爵 石井菊次郎殿
総支配人代理 武 内 金 平(印)
横浜正金銀行

大正五年一月七日

四洮鐵道借款交渉始末報告書別紙写ノ通り小田切弊行取締役ヨリ差出候ニ付茲ニ供御内覽候 敬具

(附記附属)

別紙写

四洮鐵道借款交渉始末報告

一昨年以来日支兩國当事者ハ滿蒙鐵道建造問題ニ關シ交渉ヲ重ねタリシカ其一部タル四鄭線ヲ借款建設スル件ハ先般交渉ヲ完結シ財政總長周學熙交通總長梁敦彥ハ支那政府ヲ代表シ本役ハ本行ヲ代表シテ本月十七日該契約書類ニ署名調印ヲ了シ茲ニ一段落ヲ告ケタルハ本役ノ欣喜ニ勝ヘサル所ナリ

本件交渉ノ經過ハ協議ノ進行ニ伴ヒ断片的ニ時々発送セル報告ニ依リ之ヲ詳悉セラレタルコトト信スルモ茲ニ全般ノ解決ヲ機トシテ本件発端以来ノ交渉狀況ヲ總括的ニ記述

シ併テ将来ニ對スル意見ヲ附記シテ一般ノ参考ニ供スルコトハ獨り過去ノ情形ヲ概見スルニ於テ必要ナルノミナラス抑亦將來ニ於ケル方針ヲ定ムルニ於テ裨益ナキニアラサルヘシ因テ左ニ項ヲ分チ之ヲ開陳セン

一、本件ノ発端 本役ハ曾テ南滿洲ニ於ケル本邦特殊ノ地位ト交通貿易ノ機關ヲ增設スルノ必要トニ鑑ミ我力利用シ得ル資金ニ頼リ同地方ニ幾多ノ鐵道ヲ建設スルコトヲ以テ一大急務ナリト認メタルノミナラス又此意見ニ對シテハ朝野共ニ何等反対ナキモノト確信セシニヨリ明治四十四年春北京ヨリ帰朝ノ途次奉天ヲ過キ東三省總督趙爾巽ヲ訪問シテ本邦ヨリノ借款ヲ以テ鐵道ヲ建造スルノ議ヲ進メタリ當時同總督ハ全然我提議ニ同意ヲ表セシノミナラス若シ右ニ關シ中央政府ヨリ意見ヲ諮詢セラレタル場合ニハ事ノ成立ヲ図ルヘク必ス十分ノ援助ヲ為スヘシトノ確答ヲ与ヘタリ

因テ帰朝後一ノ具体的成案ヲ得ン為メ朝野ノ間ニ奔走中不幸ニシテ革命事變突發シ支那全体ヲ挙テ混亂沸騰ノ裡ニ陥ラシメタル為メ一時之ヲ中止スルノ已ムヲ得サルニ至レリ 大正元年支那政府カ六國團體ニ對シテ大借款問題ヲ提起セシヤ本役ハ日本團體代表者トシテ該件ニ參加ノ為北京ニ

至レリ當時朱総長ノ所答ハ不即不離ニシテ何等要領ヲ得サ
リシモ而カモ断然拒絕ノ状ナキヲ以テ爾後二三ヶ月ノ間ニ
数回總長ト会見シ一面同次長葉恭綽ト連絡ヲ保チ日支ノ國
交關係及實業連絡ヨリ見テ該鐵道ノ建造ヲ必要トスルコ
ト、該鐵道ハ日本資金ヲ以テ建造スルモ鐵道其物ハ支那自
國ノ財產ニシテ他国ニ對シ鐵道敷設権ヲ附与スルモノニア
ラサルコト、支那ニ於テ他ノ外國ヨリ借款修路シ而カモ日
本ニ対シ同一ノ利益ヲ与ヘサルハ偏頗ノ処置ナルコト等凡
百ノ理由ヲ鼓吹シテ政府ヲ動カスコトヲ力メタル結果朱総
長ハ終ニ日本ノ資本ヲ借入レ鐵道ヲ建設スヘシトノ主義ヲ
承認シタル上更ニ一步ヲ進メテ線路問題ヲ論議スルニ至レ
リ是ヨリ先キ兩者ノ間ニ撰押スヘキ線路ニ闇シテ時々意見
ヲ交換セシコトアリシカ此時ニ至リテ談ハ一層具体的トナ
リ我ハ第一、長春洮南線、第二、鈴嶺若クハ開原ヨリ洮南
ニ達スル線、第三、南滿線ノ或一点ヨリ海龍城ニ達スル線
ヲ択ヒ交通部ハ第一線ニ對シテ異議ナキモ第二及第三ノ二
線ハ都テ奉天ヲ起點トスヘキコトヲ主張シテ兩者ノ意見容
易ニ一致ヲ見サリキ、交通部主張ノ根底ハ該二線ト京奉線
トヲ連絡セントスルニ在リ是レ同年九月迄ノ狀況ナリ

二、辦法大綱決定 此ノ如クシテ線路撰押問題ハ未タ決
定ヲ告ケサリシカ同年七月頃孫寶琦李盛鐸ハ大綱統ノ内命
ニ依リ本邦ニ赴キ當時在京中ノ故山座公使ハ主トシテ其接
待ノ任ニ当リシ際本件ニ闇シ兩者ノ間に意見ヲ交換セシ結
果茲ニ從来本役交通部間ニ進行セル私議ハ一変シテ兩國官
憲間ノ公議トナレリ其後同公使ノ北京ニ赴任スルヤ本件ニ
闇シ各方面ニ對シテ交渉ヲ開始シ本役亦從來ノ行掛アルト
公使ノ委嘱アルトニヨリ終始兩者ノ間に奔走シ微力ヲ效ス
所アリシカ終ニ同年十月ニ至リ當局者間ニ交換セル公文書
ヲ以テ辦法大綱ヲ定メ借款建造及線路ニ闇スル問題ヲ解決
スルニ至レリ右文書ノ要旨如左、

(一) 支那政府ハ日本國資本家ノ資金ヲ借入レ左ニ記スル
各鐵道ヲ建造スルコトヲ承諾ス

甲、四平街ヨリ鄭家屯ヲ經テ洮南府ニ至ル線路、
乙、開原海龍城線路、
丙、長春ニ在ル吉長鐵道停車場ヨリ南滿線路ヲ貫通
シテ洮南府ニ至ル線路
以上各線ト南滿洲鐵道及京奉鐵道トノ聯絡ニ闇スル辦
法ハ別ニ之ヲ協定スヘシ

前項借入金ニ闊スル辦法ノ細目ハ浦信鐵道借款契約ヲ
以テ標準トシ本大綱議定後ニ於テ支那政府ハ速ニ日本
國資本家ト之ヲ協定スヘシ
(三) 支那政府ハ将来洮南府城承德府城線及海龍府吉林省
城線ヲ建造ノ際外資ノ借入ヲ要スルトキハ先ツ日本國
資本家ト協議スルコトヲ承諾ス

三、滿蒙鐵道借款契約案(大正三年提出)ノ始末

右ノ如クシテ辦法大綱ノ決定セラレタル後我當局者ニ於
テハ各該線路ト南滿鐵道トノ間ニ密接ノ關係ヲ保タシメン
為該會社ヲシテ契約当事者タラシムルヲ可トスルノ意見ヲ
懷抱セラレ而シテ山座公使ハ之ニ闊スル卑見ヲ求メラレタ
ルニ付本役ハ言下ニ肯定的答申ヲ為セリ曰ク此事業ハ我國
利發展ノ目的ヲ以テ企図セラレタルモノナレハ苟モ十分ノ
資本信用ヲ有シ而カモ之ヲ完全遂行シ得ル我資本家タル以
上ハ其契約当事者ノ誰人タル如キハ枝葉ノ問題ニ屬スルヲ
以テ本役個人ノ閥スル限り何等異見ナシト是ニ於テ同公使
ハ國務總理熊希齡ニ對シ南滿鐵道會社ヲ契約当事者タラシ
ムヘク協議ヲ開始シ一面本役ハ同公使ノ意ヲ承ケ交通總長
同次長ニ向ヒ同様ノ旨趣ニ依リ勧告的交渉ヲ試ミタルモ支

那官憲ニ於テハ或ハ本件ハ其始ヨリ本行ヲ契約相手方トナ
ス意思ヲ以テ協議ヲ進行セシタルモノナレハ今ニ於テ之
ヲ變更スルコトヲ望マスト称シ或ハ本件ハ交通部ニ於テ多
年ノ間本行ヨリ受ケタル好意ニ對シ報酬的行為トシテ之ヲ
提供セシモノナレハ本行以外ノ者ヲ契約当事者トナスノ意
ナシト答ヘテ何レモ我提議ニ同意ヲ表スルノ状ナシ因テ我
當局者ハ本行ト協議ヲ遂ケ本行ヲ契約当事者トナスコトニ
定メ契約細目案ヲ作成ノ上本役ヲシテ之ヲ交通部ニ提出シ
且交渉ノ衝ニ当ラシメタリ

右契約案ハ公債三千万円ヲ發行シ此ヨリ得タル資金ヲ以
テ四平街洮南府線開原海龍線ヲ建造セントスル宗旨ヨリ成
ルモノニシテ大正三年四月之ヲ交通部ニ提出スルト同時ニ
可成丈速ニ之ヲ協商審議センコトヲ請求セリ然ルニ此時ニ
於ケル同部ノ態度ハ稍冷淡ニシテロヲ原案審査ニ籍リ推宕
敷衍日又一日容易ニ會議ヲ開始スルノ状ナシ因テ本役ハ百
方運動ヲ試ミ一面葉次長トノ意思疏通ヲ計リ纔ニ同年七月
ニ至リ同部ヲシテ交渉委員一名ヲ任命セシメタリシカ未タ
幾クモナラスシテ歐洲ノ戰亂發生シ金融市場ハ異常ノ変態
ヲ現ハシ公債ノ募集ハ一時其目的ヲ達スル能ハサルヨリ本

役ハ一回ノ交渉タニ試ミシテ北京ヲ退去シ帰朝ノ途ニ就キタリ後ニ至リ當時同部ノ態度カ冷淡ナリシ原因ヲ詳査セシニ主トシテ漢口兗州南京事件殊ニ同部ト直接ノ関係アル昌黎事件ノ為支那政府カ懷抱セル対日的悪感ト本行カ葉次長ノ請求ニ係ル二百萬円借用ノ議ヲ拒絶セシトニ在リシモノノ如シ

四、四鄭鐵道借款契約案 本年五月日支交渉案件ノ解決後間モナク本邦当事者間ニ於テ此際前記四平街洮南線ノ一部タル四平街鄭家屯線ヲ建造セントスルノ意向ヲ抱カレ而シテ支那政府ニ之ヲ提議スルノ時機ニ閑シテ卑見ヲ徵セラレタルニ付本役ハ交通總長梁敦彥ヲ訪問シテ本件ノ沿革ト本行ニ於テ四鄭線建造ニ対スル資金ヲ準備セル次第ヲ述ヘタル上可成丈速ニ其建造ニ着手スルノ大勢ニ利益アル理由ヲ勧告的ニ説明セシニ同總長ハ言下ニ我提議ヲ容レ同部參事陸夢熊ヲ交渉委員ニ任命セリ（後ニ至リ陸夢熊ハ居常總統府ニ出入スル同部參事行走程經世ト又次長麥信堅ト或關係ヲ有スル同部僉事「バリストル」陳斯銳トヲ協同交渉員ニ任命センコトヲ總長ニ申請シテ其裁可ヲ得タリ）是ニ於テ七月二十日本役ハ新契約案（昨年提出契約案ニ若干ノ修正

ヲ加ヘタルモノ）ヲ陸等ニ交付シ八月六日始メテ正式會議ヲ開始シ爾來二十有三回ノ会合ヲ重ネ去月二十六日ニ至リ之ヲ閉鎖セリ此外其前後ニ於テ当事者間ニ行ハレタル非公式意見交換、最近ニ於ケル外交次長曹汝霖トノ交渉及政事堂左丞楊士琦、稅務處督弁梁士詣、總統府方面等一般ノ鐵道借款問題ニ閑シ直接間接ニ勢力ヲ有スル人物ニ対シ意思疏通ノ目的ヲ以テ會見ヲ遂ケタルコトヲモ屈指セハ僕ヲ更メ數ヘ難キモノアリ本件カ此ノ如クシテ纔ニ完結ヲ告ケタル事情ハ後ニ至リ之ヲ詳記セントス

右契約案ノ交渉ハ中途ニ於テ一回又最近ニ於テ一回決裂ノ危機ニ瀕シタル事アリ即チ其一ハ交通部カ四鄭線以外ノ各線路ノ借款建造ヲ本行ト予約スル件ニ閑シ満足ノ回答与ヘサリシ時ニシテ他ノ一ハ同部力公債發行手數料ノ件ニ閑シ既ニ彼我ノ協定ヲ了セル往復書面案ヲ後ニ至リ其修正ヲ請求シ来リ並ニ同部ノ提案ニ係ル軍隊輸送問題ノ決答ヲ促シ来リタル時ニ在リ前者ハ外交次長ノ斡旋ニ依リ我主張ノ八九分ヲ貫徹シ後者ハ同シク該次長ノ居中調停ト本行ノ寛容トニヨリ同部請求ノ八九分ヲ納レテ無事ニ之ヲ解決スルヲ得タリ交渉ノ終始ヲ通シ曹次長カ交通總長財政總長（周

学熙）ニ対シ意思疏通ノ労ヲ取リシハ獨リ同人ノ本行ニ対スル好意ニ出タルノミニアラス実ニ大總統ヨリ可成丈速

ニ本件ノ解決ヲ図ルヘシトノ内命ヲ受ケタル結果ナリト信スヘキ理由アリ

五、重要事項交渉概況 茲ニ本件交渉中双方交渉員間ニ最モ論議ヲ重ネタル各項ニ閑シ其経過ヲ摘記セントス

(一) 契約ノ形式及順序ニ閑スル問題

交渉ノ始ニ於テ梁總長ハ歐洲戰亂終熄シ金融市場常調ニ復スル迄ハ一時ノ借入金ヲ以テ鐵道工事ヲ進行スルヲ可トスヘク而シテ此旨趣ニ依リ簡單ナル借款契約ヲ訂結シ置キ他日時機ヲ見テ公債發行ニ閑スル契約ヲ議訂スヘシトノ意見ヲ有シ為ニ提出原案ニ対スル正式會議ノ開催ヲ阻礙セリ因テ本役ハ總長及陸委員ニ対シ契約ハ大綱ノ規定ニ基キ必ス浦信契約ヲ標準トシテ之ヲ商定スヘキコト、日本ニ於ケル金融市場ノ狀況ハ公債發行ノ余裕ナキニアラス万々其ノ絶對的不可能ナル場合ニハ原案第二十四条ノ規定ニ依リ總長ノ希望スル如ク一時ノ借入金ヲ以テ工事ニ着手シ得ヘキコト等ヲ詳細説明シテ総長ノ反省ヲ促シタル結果漸ク原案ノ審議

於テ銀行カ線路協定ノ権利ヲ得タルコトヲ思へハ亦自ラ慰ムルニ足ルモノアリ、去レトモ若シ本役ニ於テ事ノ始メヨリ相当ノ手続ヲ尽シタル上我態度ヲ定メタランニハ或ハ一層良好ナル条件ヲ獲得スルコトニ於テ成效セシヤモ計リ知リ難シ今猶遺憾ニ感スル所ナリ、

(三) 四鄭線以外ノ各線路ヲ借款建造スル問題、原案第二条第三項（漢文契約第二項）及第二十条ニ於テ鄭家屯洮南府間、長春洮南府間開原海龍間各線ノ建造モ亦本契約ニ照シ銀行ト協議スヘク又海龍吉林間洮南熱河間二線ノ建造ニ際シ外資ヲ使用セントスルトキハ先ツ銀行ト協議スヘキ旨ヲ規定シアリシカ交通部ハ之ニ対シ終始頑強ナル抵抗ヲ試ミタリ其理由ハ第一、既ニ辦法大綱ニ各線路ヲ明記シアル以上ハ本契約ニ於テ重複開列スルノ必要ナシ、第二、四鄭線ノ如キ短距離鐵道ニ関スル契約ニ於テ之ニ數倍スル長距離ノ鐵道ニ關スルコトヲ附記スルハ妥当ノ处置ニアラスト云フニ在リ我ハ之ニ對シ第一、該條項ハ各線路ノ将来ニ於ケル借款建設ノ手続ヲ予定セントスルモノナレハ仮令大綱ノ規定ト多少重複ノ嫌アリト雖今日ニ於テ之ヲ明約シ置ク

去レトモ此時若シ交通部ニ於テ拒絶的決答ヲ与ヘンカ全般ノ交渉ハ少クトモ一時不調トナルヘキニヨリ事ノ此ニ至ラサルニ先チ相当ノ手段ヲ運ササルヲ得サルヲ以テ直ニ總統府内部ニ對シテ運動ヲ開始シ一面事ノ経過ヲ曹外交次長ニ告知シ兩々相待テ梁総長ノ反省ヲ促シタル結果同総長ニ於テハ終ニ自見ヲ撤回シ書面ヲ交換シテ四鄭線以外ノ諸線路ニ對スル借款ニ關シテモ亦将来本行ト協議ヲ遂クヘキ旨予約スルコトヲ承諾シ茲ニ本問題ヲ解決スルニ至レリ

(四) 担保問題、原案第九条第三項ニ於テ担保トシテ提供セラレタル鉄道ノ動産不動産及収入ハ本借款以外ノ債務ノ担保トナスコトヲ得ス又之ヲ損傷スル虞アル措置施設ヲ為スコトヲ得ストノ意ヲ規定シアリシカ交通部ハ其始ニ於テ右全文ノ削除ヲ主張シ我ハ其規定ノ必要ナルコトヲ固執シ幾多論争ノ末中途ニ於テ一旦浦信契約中同一事項ニ該当スル条文ヲ採用スルコトニ意見一致シ更ニ最後ニ於テ本公債ノ担保ハ之ヲ本公債及将来本鉄道ノ為發行セラルル第二次公債以外ノ債務ノ担保ト為スコトヲ得スト改メ其以下ノ字句ハ之ヲ削除スル

六 满蒙鉄道借款細目交渉ニ關スル件 四五五

ヲ便利トス、第二、短距離鐵道契約ニ長距離鐵道ニ關スル事項ヲ附記スルハ妥当ニアラストノ議論ハ傾聴ノ値アルヲ以テ一步ヲ譲リ該条項ヲ契約中ヨリ削除シ往復文書ヲ以テ同一ノ旨趣ヲ取纏ムヘシト主張セリ本件ニ關スル彼ノ意見ハ容易ニ一致セス一論駁多日ニ互リテ契約全条ヲ大畧議了セル時迄尚何等解決ノ曙光ヲ認メス而カモ我ニ於テ諾否ノ決答ヲ求メタルニ対シ交通部委員ノ態度甚々曖昧ニシテ要領ヲ得サリシカ彼我辯論ノ間ニ於テ梁総長ノ真意ハ四鄭以外ノ線路ニ關スル借款問題ヲ以テ他ノ日本資本家ヲ操縦スルノ具トナスヘク之ヲ保留シ置キ他日支那ニ取り一層有利ノ条件ヲ以テ契約ヲ協定セントスルニ在ルコト署明白トナリ、此ノ如キハ本行カ各線路ニ關スル借款及事業ノ統一ヲ期セントスル精神ニ違背スルノミナラス他ノ我資本家ニ遭スニ交渉ノ困難ト利益ノ犠牲トヲ以テスル結果トナリテ本邦全体ニ取り著シキ不利ヲ譲スヘキヲ以テ我ニ於テハ疾言厲色先方ノ態度ヲ非難シテ本問題ニ對シ明白ナル決答ヲ与フヘキコトヲ迫リ且其ノ決答ヲ得サル間ハ契約ノ審議ヲ停止スヘキ旨ヲ声明セリ

コトニ協定セラレタリ
担保ニ關スル支那諸鐵道借款契約ノ条項ヲ見ルニ其主義ニアリ一ハ前段ノ主義ヲ取ルモノ即チ閔内外、津浦、沙興三鐵道是ナリ、一ハ担保權ノ實行ヲ主要ノ目的ナスモノ即チ九廣、滬寧、其他ノ鐵道是ナリ當該鐵道ノ予想的利益明白ナル場合若クハ将来ニ於ケル紛擾ノ防止ニ重キヲ措ク場合ニハ第一主義ヲ可トスヘク借款元利支払不可能ノ際自ラ鐵道ヲ管理セントスルコトニ重キヲ措ク場合ニハ第二主義ヲ可トスヘシ去レトモ鐵道借款ニ對シテハ支那政府ハ前記担保ノ外ニ元利支払ヲ無条件ニ保証スル旨各契約ニ明記セラルル所ナレハ兵亂及破產ノ場合ヲ除クノ外支払ノ不可能トナルコトナカルヘク又右ノ如キ重大事故ニ遭遇セハ或ハ利益關係ヲ有スル外國ノ鐵道占領トナリ或ハ列國ノ財政干渉トナリ鐵道ノ管理權ハ自然債權國ノ手ニ帰スヘキヲ以テ担保權実行ノ規定ハ絶對的必要ナリト認ムルヲ得ス此見地ヨリシテ右ニ主義ノ優劣ヲ論セハ第一ハ第二ニ比シ有力有效ナリト判断スルニ躊躇セサルナリ

四五七

ニ於テ公債發行価格ヨリ手數料五分半ヲ扣除スル殘額ヲ支那政府ニ交付スルコトニ規定セラレタリ是レ浦信契約ノ規定ニ徴ヒタルモノナリ然ルニ浦信ノ規定ハ近年訂結セラレタル鉄道借款契約ト異リ右手數料中ニ公債發行ニ關スル一切ノ費用及印紙稅ヲ包含スル旨ヲ明記セサルカ為前記原案ニ關シ双方当事者間ニ一場ノ爭論ヲ惹起シ我ハ右五分半中ニハ印紙稅費ヲ含マサルモノト解釈シテ将来四鄭鐵道公債發行ノ際支那政府ハ別途ニ之ヲ支出スヘク若シ然ラサレハ手數料ハ印紙稅費ヲ包含スルモノトシテ六分トナスヘシト迫リ之ニ対シ交通部ハ浦信契約ノ五分半中ニ印紙稅費ヲ包含スルコトハ英支当事者カ明白ニ了解スル所ナレハ該契約ヲ標準トシテ訂結セラレタル四鄭契約ノ公債ヲ發行ノ際政府ニ於テ別ニ印紙稅費ヲ支給スルノ理由ナク隨テ該費用ハ當然本行ニ於テ之ヲ負担スベシト固執セシカ交渉ノ進行ニ伴ヒ彼我交渉者ノ間ニ意思疎通シ結局文書ヲ以テ将来支那政府カ浦信ニ対シ五分半手數料以外ニ印紙稅若クハ其他ノ名義ヲ以テ特別支給ヲナス場合ニハ四鄭亦之ニ均霑スヘキ旨ヲ取極ムルコトニ意見畧一致

約及附件ノ要点ニ就キ異議アル場合ニハ右両件ニ關スル妥協モ亦一ノ画餅ニ帰スヘキニ因リ此理由ノ下ニ前記交渉員ノ請求ヲ峻拒シ一面彼等ニ對シ意思疏通ノ為予メ既了案件ヲ財政部ニ送付シテ十分内協議ヲ遂ケルコトノ必要ヲ切実ニ勸告セリ去レトモ交通部ニ於テハ財政部カ既了案件ニ異議ナキコト明白トナル場合ニハ本行ハ右両件ニ對シテ強硬ナル態度ヲ取ルナラントノ疑惧ヲ抱キ可成丈一切ノ問題ヲ同時ニ解決スルヲ以テ得策ナリト認メ而カモ本行為カ容易ニ此辦法ヲ承諾セサルヘシト見込ミ苦心慘憺ノ末全般ノ事項ヲ挙ケテ外交次長ノ個人的斡旋ニ依頼スルニ至レリ、

是ヨリ先キ本役ニ於テモ亦交通部カ或ハ此種ノ手段ニ訴フルコトアルヘキヲ予想シ外交次長ニ事ノ始末ヲ詳告スルト同時ニ交通部ノ交渉手続ニ幾多ノ手落アルコト此手落カ故意ナリヤ將偶然ナリヤフ問ハス不誠実ノ行為ト認メサルヲ得サルコトヲ附言シ置キタリ其後次長ハ前記交通部ノ依頼ヲ受クルヤ直ニ本役ニ向ヒ

右二件ニ關スル交通部起草ノ書面案ヲ交付シ一面既了案件ニ關シテハ今後交通部ヲシテ何等ノ修正案ヲ提出

(六) 傭聘契約問題、原案第十四条及第十六条ニ於テ会計主任、技師長運輸主任、保線技師ノ傭聘契約ハ銀行トセシメサルヘク又財政部方面ニ對シテハ自ラ極力周旋シテ既了案件ニ同意ヲ表セシムヘキコトヲ条件トシテ前記二件ニ關スル交通部ノ提議ヲ認容セラレ度旨申出テタリ之ニ対スル我最初ノ回答ハ交通部ハ手數料ニ關スル協議済往復文書案ヲ承認スヘク本行ハ軍隊輸送ノ件ニ關シ同部ニ其ノ満足スル回答ヲ与フヘシト云フニ在リシモ次長ヨリ内部ノ事情ヲ詳聞スルニ及ヒ翻然我態度ヲ変更シテ次長カ交通部財政部ニ對シ既了案件ヲ其儘承認セシムル為極力周旋スルコト前記交通部ノ二文書案ニ適當ノ修正ヲ加フルコトヲ条件トシテ本店ノ訓令ヲ請フコトニ同意シ直ニ本店ニ打電セシ處本店ニ於テハ極メテ寛大ニシテ而カモ最モ時機ニ適スル処置ヲ取ルニ決シ既了案件一切ニ何等変更ヲ加ヘサルコトヲ条件トシテ次長ノ提議ヲ其儘承認スヘシトノ意ヲ打電シ來リタレハ直チニ其旨趣ヲ次長ニ告ケ尙前記書面案ニ我希望スル如キ修正ヲ加ヘシメテ纔ニ本問題ヲ解決スルニ至レリ、

協定スヘキ旨ヲ規定セラレタリ、從來訂結セラレタル各鉄道借款契約ノ之ニ關スル規定ヲ闇スルニ其人物ノ選択ニ就テハ支那當局者カ外國當事者ヨリ推薦セシ者若クハ其同意ヲ得タル者ヲ僱聘スルコトニ於テ一致スルモ其僱聘契約条件及其訂結手続ニ就テハ全然之ヲ支那當局者被僱聘者間ノ協定ニ一任セル結果トシテ支那ノ事情ニ精通セサル外國技師等ハ不利ノ条件ヲ以テ支那當局者ト直接契約ヲ訂結シ事後幾多ノ紛議ヲ釀シ延テ鉄道工事ニ影響ヲ与ヘタル実例少ナカラサリキ、此弊害ヲ排除センカ為爾來鉄道借款協議ノ衝ニ当リシ外国人ハ常ニ本問題ヲ提起シテ右契約訂結ノ権ヲ獲得セ

ンコトヲ力メタル所アリシモ支那當局者ヲ説服スル能ハスシテ事不成效ニ終リシモノノ如シ但斯ノ如クシテ幾多ノ曲折ヲ経タル間ニ於テ自然ニ一ノ標準トナルヘキ契約案ノ発生ヲ見ルニ至レリ之ニ對シ外國當事者ハ敢テ十分満足ヲ表セサルモ事情已ムヲ得サルモノトシテ之ニ準拠シテ作成セラレタル支那當局者外國被僱聘者間ノ契約ヲ承認スルノ現状ナリ既往ノ狀況此ノ如キヲ以テ交通部ハ前記原案ニ對シテ同意ヲ表セス我亦主

(七) 鉄道巡警及軍隊輸送問題、交渉開始後間モナク交通部ハ左記条項ヲ契約正文中ニ挿入セン事ヲ提議シ同時ニ露支間ニ協議中ナル北滿鉄道借款契約案ニ之ト同一ナル規定ヲ設ケルコトニ關シ既ニ露国ノ同意ヲ得タル旨ヲ附言セリ、

一、本鉄道ヲ保護スル為巡警隊ヲ設置シ警官警兵ハ共ニ支那人ヲ採用スヘク其俸給費用ハ總テ鉄道建設及保線ノ費目ヨリ之ヲ支出スヘシ

二、若シ本鉄道ヲ保護スル為メ支那政府又ハ當該省ノ軍隊ヲ必要トスルトキハ本鉄道局ヨリ申請アリ次第直ニ其手続ヲナスヘシ、
前項軍隊ノ給与等ニ關スル費用ハ支那政府又ハ當該省ニ於テ之ヲ支弁ス、

三、軍事ニ際会スルトキハ外侮ト内乱トヲ問ハス本鉄道ハ先ツ支那ノ軍隊糧食兵器及軍需品ヲ運搬シ次ニ一般ノ取扱ヲナスヘシ、

本鉄道局長ハ命令ヲ以テ支那國家ニ損害アル者ノ本

鉄道ヲ使用スルコトヲ禁止スルノ權ヲ有ス、

因テ各鉄道借款契約ヲ閱スルニ滻寧、九廣、寧湘、沙興、各鉄道契約及道清、正太、汴洛、各行車契約ニ右規定ノ全部又ハ一部ノ存在ヲ見ルノミナラス其他ノ鉄道ニ於テハ借款契約ノ成立ト同時ニ往復文書ヲ以テ之ヲ取極メアルナラントノ疑ヲ生セリ而シテ今回交通部カ其提出セル原案第一項ノ二ニ於テ巡警ノ人數及金額ヲ督辦銀行ノ協定ニ付スルコトニ立案セルハ從來訂結セル各契約ノ規定ニ比シテ一ノ進歩ナリト認メタリ因テ本役ハ本店ト協議ノ上前記ノ第一、第二ノ兩項ヲ契

約中ノ一条トシテ挿入スルコトニ同意ヲ与ヘシモ獨リ第三項ノ規定ニ至テハ内容穩当ナラサルヲ以テ多少ノ成例アルト露国ノ同意ヲ表セル所ナルニ拘ハラス又之ヲ規定スル形式ノ如何ヲ問ハス徹頭徹尾之ヲ拒絕シ去レリ然ルニ交通部委員ハ最後ノ會議ニ於テ支那政府カ四鄰鐵道ニ對シ自國軍隊及軍器ヲ輸送スル優先權ノ承認ヲ求メ且往復文書ヲ以テ之ヲ取極メンコトヲ提議セリ、

此時ニ於ケル支那ノ態度ニ微スルニ若シ我ニ於テ右提議ニ満足ノ回答ヲ与ヘサルトキハ既ニ協定ヲ經タル案件ヲ其儘擱置シテ我ヲ苦シムヘク重團的戰法ヲ取ラントルモノノ如ク之ニ對スル作戰計画トシテ我ハ表面ニ於テ優先權ヲ承認スルコトヲ避ケ反面ニ於テ軍隊輸送等ノ為商利ヲ虧損シ若クハ借款ノ担保タル鉄道收入ニ影響ヲ与フルコトヲ得スト回答シテ以テ部分的逆襲ヲ試ミニモ交通部ハ固ヨリ之ニ満足ヲ表セス終ニ前項手数料問題ト共ニ外交次長ノ斡旋ニ對シ本役次長間協議ノ結果往復文書ヲ以テ支那軍隊輸送ノ優先權ヲ承認シ且ツ其場合ニ於テ各借款鉄道ノ例ニ依リ其運賃ヲ半

減スルコトニ取極メテ本問題ヲ解決セリ、

此解決ハ恰モ支那ニ取り有利ノ観アリト雖熟ラ考フル

ニ四鄭鐵道カ支那自國ノ鐵道ナル以上ハ本契約及關係書類ニ反対ノ規定ナキ限り支那政府ハ軍隊輸送ノ為隨意ニ自國ノ鐵道ヲ使用シ得ヘク此明白ナル事實ヲ往復文書ヲ以テ認識ヲ求ムルコソ却テ不可思議ナリト云ハサルヲ得ス即チ当然ノ事ヲ当然ニ取極メタルモノナレハ特ニ支那ニ取り有利ニ解決セラレタルモノト觀察スルヲ得サルモノアリ、一面支那政府ハ本邦ノ對滿政策ニ闕シ今猶非常ノ疑惧ヲ抱キ何事ニ拘ハラス過敏ノ精

神ヲ以テ成行ヲ注視シツツアル際ナレハ若シ我ニ於テ終局迄軍隊輸送問題ニ反対スルトキハ徒ラニ同政府ノ疑惑ヲ増重スルニ止リ事実何等ノ利益ナク仮リニ本問題ヲ未決ノ儘懸案トナスノ手段ヲ取ルモ他日行車契約即運転契約ノ訂結ヲ必要トスル際ニ於テ死灰再燃シ同一爭論ヲ繰返ササルヲ得サルコトナリ而シテ其帰著スル所ハ今日決定セシ所ト何等相異ナキハ逆覩ニ難カラサル次第ナレハ寧ロ此際支那当然ノ権利ヲ尊重シ且将来ノ紛擾ヲ杜止スル為前記ノ如ク解決シ去ルノ利ア

ルニ如カサルナリ、

(八) 鉄道材料購入問題、原案第十八条（契約正条第十九

条）ニ於テ銀行ハ鐵道建造中外国ヨリ輸入スヘキ材料機械其他ノ物件ノ購買ヲ掌ル取扱者ヲ指定スルコト及外國材料等ノ品質価格同一ナルトキハ最先ニ日本品ヲ次ニ取扱者ノ推薦スル國ノモノヲ購買スヘキコトヲ規定セラレタリ之ニ闕シ交通部カ幾多ノ質問ヲ發シタルニ對シ我ハ十分ノ説明ヲ与ヘタルモ一時ノ形勢ハ樂觀ヲ許ササルモノアリシカ終局ニ於テ原案ヲ通過スルニ

於テ成效セリ。

從來訂結セラレタル鐵道借款契約ニ就キ材料購入取扱者ニ闕スル規定ヲ檢スルニ銀行カ其当事者タル場合ハ正太、津浦、湖広各鐵道ニ於ケル露並銀行独並銀行印度支那銀行米國「インター・ナショナル銀行」ノミニ止マリ其他ハ何レモ契約当事者タル「シンヂケート」式ノ團体カ之ヲ取扱フコトナリ居レリ然ルニ本行ノ条例及定款ハ本行自ラ材料購入取扱者タルヲ得ヘキ明文ナキヲ以テ不得已本行カ取扱者ヲ指定スルノ方法ヲ案出セル次第ナルヘク是レ從來支那ニ於ケル鐵道借款

契約ニ於テ其例ヲ見サル所ニシテ而カモ交通部ニ於テ此提案ヲ承認スルニ至リシハ本行ヲ信頼スルノ一証トシテ之ヲ挙クルヲ得ヘシ、

外國材料ノ品質価格同一ナルトキハ最先ニ借款提供國ノ製品ヲ購入スヘシトハ各鐵道契約ニ於ケル一般的規定ナルモ其次ニハ取扱者ノ推薦スル國ノモノヲ購買スヘシトノ四鄭ノ規定ハ實ニ一新例ニシテ支那政府カ本行ニ對スル信用ヲ表示スルモノナリ薩秦予海鐵道借款契約ハ一國內ニ同一材料ヲ製造スル數個ノ会社アル場合ニ於テ白國借款当事者ニ撰択ノ権利ヲ与ヘタルモ四鄭ノ規定ニ比スレハ其権利ノ範囲ニ非常ノ逕庭アルヲ見ル、

(九) 延長線又支線建造問題、原案第二十一条（契約正条

第二十条）ニ将来本鐵道ノ支線又ハ延長線ヲ建造セントスルニ當リ外債ニ依リ之ヲ建造セントスルトキハ銀行ニ優先権ヲ与フヘキコトヲ規定セラレタルカ支那側ハ右全条ヲ削除センコトヲ提議セリ其理由ハ浦信契約ニ同一ノ規定アルハ浦信カ幹線ノ性質ヲ有スル結果ニ出テタルモノナレトモ四鄭線ハ寧ロ之ヲ南滿鐵道ノ一

(十) 一時借入金鐵道工事費支弁問題、原案第二十四条（本契約附屬契約ハ本条ノ変体ナルコトハ前既ニ之ヲ記セリ）ニ於テ政治上等ノ重大事項ノ為金融市場カ公債發行ニ不利ナリト認ムルトキハ一時借入金ヲ以テ工事ニ着手スルコトヲ得ル旨ヲ規定セラレ一面本行ハ何時ニテモ右借入金ヲ支那政府ニ提供シ得ルノ準備ヲ爲セリ歐洲戰亂ノ為各國ノ既ニ訂結セル支那鐵道公債發

行ノ契約カ其実行ヲ見サルノミナラス前既ニ其一部ヲ
発行シテ工事ニ着手セシ鉄道モ亦其残部ヲ募集スルヲ
得スシテ資源枯渇工事ヲ中止スルノ苦境ニ陥リツツア
ル際ニ於テ本行カ此處措ヲ取リシハ支那政府ニ対シ極
メテ良好ナル印象ヲ与ヘタリ露國ノ北滿鉄道借款ニ闇
スル商議ハ四鄭交渉ヨリ早ク開始セラレタルニ拘ハラ
ス其進行遲々トシテ今猶磋商中ニ在ルハ畢竟此ニ職由
スルモノナリ

(4) 外国ニ於テ本邦發行公債元利支払及公債發行ニ闇ス
ル問題、原案第二十六条（契約正条第二十四条）ニ於
テ(1)倫敦巴里又ハ紐育ヲ以テ本邦ニ於テ發行セル公債
ノ元利金ヲ支払フコト、(2)公債ノ全部又ハ一部ヲ右各
地ニ於テ發行スルコトヲ規定セラレタリ右兩項共ニ從
來訂結セラレタル鉄道借款契約ニ其例ヲ見サル所ナル
ヲ以テ交通部ハ之ニ闇シ慎重ノ注意ヲ払ヒ特ニ第一項
ニ闇シテハ會議ノ全体ヲ通シテ猶予不決ノ態度ヲ取り
シモ幾多ノ説明ト勧誘トヲ試ミタル結果同部ノ同意ヲ
得ルニ至レリ、

支那政府五国団体間ニ訂結セラレタル善後借款公債ノ

力善後借款公債利払基金為替益金ヲ財政部ニ交付セル
举措ハ我希望ヲ貫徹スルニ便ナラシメタリ若シ此等ノ
關係此等ノ事情ナカラシムルトキハ前記第一項ハ到底
満足ノ解決ヲ告ケサリシナラン

六、交渉ニ影響ヲ与ヘタル事因、數年前本役カ故小村外務
大臣ノ内命ニ依リ北京ニ出張シ郵伝部ト壹千万円ノ借款契
約ヲ商議セシヤ一日ノ中ニ全般ノ問題ヲ解決シ得タリキ又
前年支那政府六国団体ノ間ニ行ハレタル善後借款ノ交渉ハ
其開始ヨリ終結迄約一年有余ヲ費セシモ正式会議ノ回数ハ
前後ヲ通シテ約二十回ニ過キサリキ然ルニ今回ノ借款ハ其
額僅ニ五百万円ニ過キス此資金ヲ以テ建造セントスル鉄道
ハ僅ニ五十余哩ニ過キス而カモ之ニ闇スル辦法大綱ハ前既
ニ決定セラレ又細目ニ闇シテハ浦信契約ヲ以テ標準トスル
コトニ確定セラレ居ルニ拘ハラス其交渉ニ異常ノ時日、
労力、費用ヲ要セシハ一見甚々奇ニシテ前後其局ニ当リシ
本役ニ於テスラ多少今昔ノ感ナキ能ハサレハ局外者ニ在リ
テハ一層奇異ノ情アリシコトナラン因テ左ニ今回ノ交渉カ
斯ク遲緩ナリシ事由ヲ縷陳セント欲ス、

一、支那政府ハ日本ノ満洲ニ於ケル拳動ニ対シテ常ニ猜
六 满蒙鉄道借款細目交渉ニ闇スル件 四五五

利札及元金ノ支払ヲ國際的トナスコト又此レカ為發生
スル為替損差金ハ一切支那政府ニ於テ之ヲ負担スルコ
トハ同契約訂結ノ當夜五国代表者ヨリ支那政府代表者
ニ提議セラレタルカ其際政府代表者ハ甚々之ヲ喜ハサ
リシモ如何セン財政ノ窮状ハ公債ノ發行ヲ遲延スル能
ハサル事情アリシカ為枉ケテ之ヲ承認スルニ至レリ然
ルニ欧亂發生以來歐洲各國間ノ為替ハ亂調ヲ呈シ隨テ
支那ノ負担スヘキ為替損金ハ巨額ニ達シ政府ハ種々ノ
辭柄ヲ設ケ容易ニ其支払ヲ肯セス為メニ両当事者間ニ
幾多ノ交渉ヲ重ねタリ而シテ此交渉ハ四鄭鉄道借款訂
結ノ間際迄其解決ヲ告ケサリシノミナラス政府ハ当初
此協定ヲナセシコトヲ甚々懊悔シツツアル時ニ當テ本
案第一項ノ希望ヲ貫徹セントスルハ容易ノ業ニアラサ
ルハ勿論前記為替差金問題ニ闇シ對五国団体當面交渉
者タル財政総長ハ即チ四鄭鉄道借款契約ニ調印スヘキ
其一人ナレハ我前途ニ横ハル障礙ハ一層重大ナルヲ感
シタリシカ幸ニモ善後借款訂結ニ闇シ本行カ財政部ニ
与ヘタル援助殊ニ最近日本短期借款ヲ國庫債券ニ振替
フル件ニ就キ同總長ノ為斡旋セル緣故及本行倫敦支店

コト、

一、我提出原案条項中ニハ其標準トシテ指定セラレタル浦信契約ニ規定セラレサル幾多ノ新条項ヲ含ミ又其浦信契約ニ拠リタル条項中ニモ多少ノ修正ヲ加ヘラレタルノミナラズ四鄭契約ハ将来訂結セラルヘキ四鄭以外各線路ノ契約ノ標準トナルヘキ性質ヲ有スルカ故交通部ハ我提案ニ対シテ厳密ニ考慮ヲ加ヘ戒慎的態度ヲ以テ議事ヲ進行セシコト、

一、梁總長ハ資性放縱ニシテ執務ニ熱心ナラス加フルニ近來健康勝レシテ部ニ赴クハ一週日中両三回ニ過キス而カモ僅々一二時ニシテ退去スルヲ例トシ随テ案件ノ決定ニ多クノ時日ヲ要シ一面交渉委員ノ地位重大ナラス全權ヲ以テ事ヲ解決スルノ力ナク事ノ大小ヲ問ハス一々總長ノ指揮ヲ仰カサルヲ得サレトモ總長ノ行動右ノ如キヨリ其裁決ヲ得ル迄ニ多大ノ工夫ヲ要セシコト、

右等ノ事情アリシカ為協議開始以来約三ヶ月間ハ何事モ不決不定ノ間に在リ若シ斯ノ状態ヲシテ無限ニ永続セシムルトキハ或ハ予想スヘカラサル事故ニ遭遇シテ全局ノ頓挫ヲ

来スノ虞アルヲ以テ茲ニ局面開展ノ為總統府及政事堂各方面ニ対スル運動ヲ開始セリ此運動ハ恰モ支那政府カ國体変更問題ニ対スル本邦ノ意向ニ重ヲ措クノ時ヲ択テ実行セラレ予期ノ効果ヲ奏シ袁大總統ハ直接梁總長ニ出来得ル丈速ニ協議ヲ進行セシムヘシトノ訓令ヲ發シ一面曹外交次長政事堂參議曹彝進ニ現状ノ調査ヲ命シタリ是ニ於テ交通部トノ交協ハ急転直下ニ進行シテ一段落ヲ告ケ財政部ニ於テハ前既ニ記述セシ如ク交通部ノ正式交渉ニ接セサルニ先チ同部ヨリ非公式ニ廻付セル契約案ニ同意ヲ表シ而カモ交通部カ正式呈請書ニ契約書類ヲ添付シテ總統府ニ進達セルヤ大總統ハ其翌朝（即本月十六日）直ニ之ヲ批准シ又交通財政兩部總長ハ予定ノ調印期日ヲ繰上ケテ十七日一切ノ手続ヲ完了スルニ至レリ交通部ノ態度カ其始ニ於テ渋滞処女ノ如クナリシニ反シ總統府及政府ノ行動カ後ニ於テ奮迅脱免ニ似タリシハ外交上政治上ノ關係与テ力アルハ論ヲ俟タサル所ナレトモ抑亦支那政府カ本行ニ対スル信用ノ反映ナリト云フモ敢テ過言ニアラサルヘシ

七、技師長会計主任ノ撰択、将来ニ於ケル四鄭鐵道ノ運命ハ懸揣スル能ハスト雖今日契約当事者トシテハ飽迄鐵道ヲ

以テ支那政府ノ自營運輸機關ト視做シ其權利ト利益ヲ尊重セサルヲ得サルコトハ敢テ之ヲ説クノ必要ナク之ト同時ニ四鄭契約カ此種契約ノ日支間ニ訂結セラレタル首位ニ在ルモノナルカ故若シ万一我ニ於テ契約ノ運用ヲ誤リ事体ノ紛乱ヲ釀ストキハ独リ四鄭線以外ノ線路ノ建造問題ヲ円満ニ解決スル能ハサルノミナラス延テ一般ノ実業問題ニ影響ヲ与フヘキハ理ノ当然ナリ是ニ於テカ技師長会計主任ノ撰択ヲ嚴密ニスルノ必要ヲ生ス

借款ノ契約既ニ訂結シ公債募集ノ手續確定ノ後ニ在テ最モ注意ヲ要スルモノハ建造事業ヲ担当スヘキ技師長及会計監督ノ任ニ当ル会計主任ノ任命はナリ此二者ハ常ニ鐵道局部内ニ在テ直接支那當局者ト接触スルカ為獨リ技能ノ卓越ヲ必要トスルノミナラス接衝交際ニ特殊ノ手腕ヲ具備セサル可ラス而シテ從來各鐵道ニ於ケル外支間關係ノ歴史ヲ溯査スルニ彼等カ往々此種ノ手腕ヲ具備セサルカ為自己ノ技能ヲ發揮スルニ由ナク延テ業務遂行ノ阻碍ヲ來シ併セテ支那当事者ヲシテ當該国人ヲ嫌忌セシメ其国人ト他種ノ事業ヲ共同經營スルコトヲ欲セシメサリシ實例アリ是レ四鄭鉄道ニ対スル一大教訓ニアラスヤ要スルニ該鐵道ノ将来ニ於

ケル本邦ノ信用ハ繫テ技師長会計主任ノ双肩ニ在リト云フヘシ
該鐵道ニ傭聘スヘキ日本技師長会計主任等ハ支那當局者ニ於テ本行ノ同意ヲ経テ之ヲ任命スヘキ旨契約ニ於テ規定セラレ隨テ其人物ノ撰択ハ支那當局者ニ存スルカ為我ニ於テ自ラ前項ノ各条件ヲ具備スル人物ヲ推薦スルノ自由ナシト雖而カモ我ハ之ニ対スル許否權ヲ有スルカ為事實ニ於テハ我自ラ之ヲ推薦スルト同様ノ結果ヲ生ス若シ支那當局者カ任用セントスル人物ニシテ前記ノ条件ヲ具備スルモノナルトキハ則チ已マン若シ然フサル場合ニハ我ニ於テ支那路政ノ為之ヲ不可トスル理由ヲ十分説明シ其反省ヲ促スヲ可トスヘク最モ巧妙ナル方法ハ或機会ニ於テ我自ラ適材ヲ推薦シテ之ヲ任用セシムルニ在ルコトハ論ヲ俟タサル所ナリ而シテ万一前記各条件ヲ完全ニ具備スル人物ヲ物色スル能ハサル場合ニハ技能ヨリモ寧ロ交際的手腕ニ重キヲ措クヲ得策ナリトセン何トナレハ技能ハ他人ノ力ニ頼リ其足ラサル所ヲ補充シ得ルモ交際的手腕ニ至テハ全然其趣ヲ異ニスルモノアレハナリ、

八、対支政策ト對支實業、近年支那カ外國ヨリ借款ヲ以テ

建造ニ着手シ若クハ建造セントスル各鉄道ハ之ヲ二種ニ区分スルヲ得ヘシ、一ハ特殊ノ歴史ヲ有スルモノニシテ湖廣、浦信、寧湘、沙興是ナリ、一ハ特殊ノ事情ヲ有スルモノニシテ隴秦、豫海、同成、欽渝是ナリ、勿論特殊ノ歴史ヲ有スル鉄道ニシテ其当初ニ遡レハ特殊事情ヲ有スルモノアリ又特殊ノ事情ヲ有スル鉄道ニシテ相当ノ歴史ヲ有スルモノアリテ拉雜紛糾其区画判然セサル能ハスト雖大体ニ於テ前記ノ如ク區別スルヲ得ン而シテ其歴史上ヨリ来ルモノハ外支両当局者ノ意見一致後早キハ數年遅キハ十余年ヲ経テ始メテ契約ノ成立ヲ見、一方特別事情ニ基クモノハ僅々數ヶ月間ニ契約ノ協定ヲ告ケタリ、四鄭鉄道ハ湖廣浦信等ノ如キ特別ノ歴史ヲ有セス又隴秦豫海等ノ如キ特別ノ事情ヲ有セサルモノナレハ交渉開始ノ始ヨリシテ幾多ノ困難ニ遭遇スヘキコトヲ予期セサリシニアラサルモ而カモ其実状ハ実ニ予期以外ニ出テタリ其原因ニ至テハ前段ニ詳記セル所アリト雖總括的ニ評シ去レハ日本ノ対支政策ノ影響ヲ受ケタルモノナリト云フヲ得ン

支那ニ於ケル政治実業ノ間ニ密接ナル關係ヲ有シ政府ノ意向ハ多數実業者ノ態度ヲ支配スルコトハ必スシモ幾多ノ

フ可カラサルモノナレハ此際我ハ権利実業ノ何レヲ主トシリ支那ニ対スルカヲ考慮シ其決定セル方針ニ基キ勇往邁進スルコト現下ノ急務ナラン、

本年行ハレタル日支交渉ノ手続等ニ關シテハ内外ニ幾多ノ批評アリト雖此交渉ノ結果トシテ成立セル條約等ハ東洋ニ於ケル永遠ノ禍根ヲ断絶スル効力ヲ有シ隨テ其局ニ当リシ官憲ノ功勞ハ特筆大書セサルヲ得サルモノアリ此レカ為一時支那ニ於テ日貨排斥日人窘迫ノ發現アリテ實業上幾多ノ損害ヲ招キタリト雖モ永遠ノ利害ヲ權衡スレハ其得失相償フテ余アルハ今更呶々ヲ須キサル所ナリ去レトモ試ニ思ヘ當時若シ我ニ於テ既ニ獲得セル所以上ニ向テ雷池一步ヲ越ユルトキハ永久ニ支那官民ノ反抗ヲ受ケ永久ニ關係各国ノ嫉視ヲ招キ永久ニ本邦ヲシテ孤立無援ノ地ニ陥ラシムルノ虞アリシヲ、千載一遇ノ時機ニ於テ行ハレタル交渉スラ猶然リ況ヤ将来歐亂終戻ノ後列國環視ノ下ニ行ハル交渉スル能ハサルノミナラス中途覆没ノ危機ニ瀕スルノ恐アルハ具眼者ノ逆覗ニ難カラサル所ナリ事理此ノ如キニ拘ハラス本邦カ依然支那ニ対シ侵略的威嚇的強迫的ノ態度ヲ取リ

本邦ニシテ支那ニ対シ将来モ亦過去數年間ニ於ケルカ如ク侵略的（多少語弊アルモ）威嚇的強迫的ノ態度ヲ取ランカ支那政府及數教國民ノ嫉視憤怒ヲ招キ我經濟的實業的ノ發展ヲ阻礙スルハ言ヲ俟タサル所ニシテ之ニ反シ我經濟的實業的ノ發展ヲ企図セントセハ平和的寬厚的撫育的ノ国交方針ヲ持シテ此政府ト國民トニ臨マサルヲ得サルナリ、（但支那政府ノ條約違犯等ノ非違行為ヲ黙視スヘシトノ意ニアラス）若シ我ニ於テ國交ノ威儀ト實業ノ發展トヲ同時ニ促進スルヲ得ハ即チ無上ノ良策ニシテ各國ノ外交家ハ此目的ヲ達スル為多年ノ間苦心參攬スル所アリト雖何レモ一舉兩得ノ効果ヲ挙ケタルコトヲ聞カス所謂言フヘクシテ行

經濟的實業的利益ヲ第二位ニ置クカ如キコトアラシムレハ之ヲ思慮アル政策ト云フヘキカ如何、

本邦ノ對外貿易ハ支米両國其主要ノ地位ニ在リ就中支那ニ於ケル本邦製品ノ販路ハ前途洋洋々海ノ如キモノアルヲ以テ本邦ハ其發達開展ニ全幅ノ精神ヲ集注シ我富源ノ涵養ヲ圖ラサル可ラス一面本邦ニ於ケル人口ノ増加ハ或程度迄支那ノ領土ニ於テ其安息ノ地ヲ求メサル可カラス經濟ノ發達ニ伴フ慾望ハ支那ノ實業ニ於テ之ヲ満足セシメサル可カラス是レ本邦ノ要需也本邦ノ輿論也實業ノ利益ヲ對支方針ノ主位ニ置カサル可カラサル根本的理由也然ルニ本邦ニ於テ支那ニ対シ侵略的威嚇的強迫的態度ヲ取ルトキハ商業ハ意外ノ妨害ヲ受クヘク移民ハ前途ヲ遮断セラルヘク經濟的經營ハ何等發展ノ望ナカルヘシ是レ豈我立國ノ根本的必要ニ一大障碍ヲ与フルモノニアラスヤ、

右ハ單ニ日支兩國間ノ關係ノミニ就キ立論セルモノナリト雖試ニ眼ヲ転シテ前途ヲ達觀シ支那ノ向背カ本邦ノ運命ニ重大ナル影響ヲ與フヘキコトアルニ想到セハ兩國ノ關係ニ対シ一層慎重ナル注意ヲ払フノ必要アルヘシ仮リニ茲ニ本邦ハ或事件ノ為某國ニ対シテ開戦セシ場合ヲ想像セヨ、

六 满蒙鉄道借款細目交渉ニ関スル件 四五六

四七〇

其際支那某国間ノ交情ヲシテ親密ナラシムルトキハ支那ハ某國ノ利益ノ為好意的中立ノ態度ヲ取り或ハ進テ本邦ニ対シテ宣戰ヲ布告スルコトナシトモ限ラス事此ニ至ラハ本邦ニ取リ一大不利ナルハ言ヲ俟タサル所ナリ之ニ反シ支那ニシテ本邦ニ好意ヲ表スルトキハ正ニ反対ノ結果ヲ來スヘシ支那ノ向背力戰局ニ与フル影響ニシテ此ノ如ク重大ナルモノアリトセハ平素我ニ於テ支那ノ好感ヲ博シ置キ必要ノ場合ニ於テ万遺算ナキヲ期スルハ十全ノ策ナリト確信ス本役ハ更ニ此見地ヨリシテ支那ニ對スル侵略的威嚇的強迫的態度ヲ全然一変シ實業發展ノ方針ヲ遂行シ両国間ニ一ノ堅牢ナル連鎖ヲ造ルノ得策ナルコトヲ唱道スルモノナリ、

支那ハ弱國ナリ而カモ一ノ獨立國ナリ之ニ對シテ強迫ヲ加ヘ且其面目ヲ虧損セシムルトキハ窮鼠猫ヲ噛ムノ態度ニ出テン支那國民ノ多數ハ小兒ノ如シ而カモ其一部分ハ唯我獨尊ノ性癖ヲ有セリ之ニ對シテ過嚴ノ処置ヲ施シ且其自負心ヲ傷クルトキハ面從背違ノ舉止ヲ取ルヘシ是レ空言ニアラスシテ事實ナリ而カモ幾回カ繰返サレタル歴史ナリ対支政策ノ要ハ大局ヲ把持シテ細目ニ拘泥セス其敵愾心ノ存在ヲ排シテ信賴心ノ湧發ヲ促シ威力鋒銳ヲ藏シテ經濟發展ヲ

圖ルニ在リ果シテ此政策ニシテ實現セラル場合ニハ独リ四鄭線以外ノ線路建造問題等ヲ咄嗟ノ間ニ處理シ得ルノミナラス漢治萍合辦及其他ノ實業問題ノ如キ亦容易ニ意思ノ疏通ヲ見ルヲ得ヘク一面日支交渉ノ末ニ於テ将来ノ討議ニ讓ルヘク留保セラレタル各種問題ノ大半ニ至テモ亦談笑ノ間ニ之ヲ解決スルノ道ナキニアラサルヘシ。

大正四年十二月下旬 於北京

小田切萬壽之助述

四五六 十二月二十四日 武内正金銀行總支配人心得代理ヨ
石井外務大臣宛

四鄭鐵道借款契約及附件写附屬往復文書写送

付ノ件

附屬書一 四鄭鐵道借款契約及附件写
二 四鄭鐵道借款契約往復文書写
附 記 十二月二十一日附武内正金銀行總支配人心得
代理ヨリ石井外務大臣宛書信第一四七号
四鄭鐵道借款契約附屬往復文書ニ關スル件

第一四九号
大正四年十二月二十四日

道公債ト稱シ發行ノ日ヲ以テ其ノ日附ト爲ス

第貳條 本公債募集金ハ四平街ヨリ起リ鄭家屯ニ至ル鐵道ノ建造ニ充ツルモノトス線路ハ測量完成ノ上本鐵道督辦銀行之ヲ協定シ交通部ノ認可ヲ受クルモノトス

第參條 本公債募集金ハ專ラ本鐵道線路ノ建造費（土地車輛及其ノ他一切ノ設備材料ノ購買費ヲ含ム）營業費及建造中ニ於テ支拂フヘキ本公債利子ニ充ツ

右建造ハ本契約調印後六個月以内ニ起工シ實際起工ノ時ヨリ凡ソ貳年間ニ完成スヘシ

前記六個月ノ期間内銀行ハ本鐵道督辦ニ對シ公債募集金

勘定ノ第壹回拂込トシテ金貳拾萬圓ヲ超過セサル金額ヲ督辦ノ命ニ依リ日本ニ保管シ又ハ支那ニ廻送シ本鐵道局ノ使用ニ供スヘキコトヲ通知スヘシ

右ニ據リ實際前貸セラレタル金額及其ノ利子ハ第壹回公債募集金中ヨリ控除セラルヘク其ノ利子ハ年七分ヲ超過セサルモノトス
前項前貸金ハ銀行ノ都合ニ依リ銀兩ヲ以テ之ヲ爲スコトノ間ニ契約スルコト左ノ如シ

第壹條 政府ハ銀行ニ五分利付政府金貸公債五百萬圓ヲ發行スルノ權限ヲ付與ス本公債ハ支那政府五分利付四鄭鐵

六 满蒙鉄道借款細目交渉ニ關スル件 四五六

第四條 本公債ノ利率ハ額面金額ニ對シ壹個年百分ノ五ト
ヲ得

四七一

シ半年毎ニ公債所持人ニ之ヲ支拂フモノトシ公債發行ノ日ヨリ之ヲ起算ス

政府ハ右利子ヲ本鐵道建造中ハ公債募集金又ハ其ノ他ノ財源ヨリ完成後ハ先ツ本鐵道收入ヨリ次ニ政府力適當ト認ムル其ノ他ノ收入ヨリ本契約附表所載ノ金額ニ從ヒ公債發行ノ日ヨリ半年毎ニ計算シ各期日拾四日前三支拂フモノトス

第五條 本公債ノ期間ハ四拾個年トシ元金ハ公債發行ノ日ヨリ之ヲ起算シ第拾壹年目ヨリ其ノ償還ヲ始ム右償還ハ本鐵道ノ收入又ハ政府ノ適當ト認ムル其ノ他ノ收入ヲ以テ第六條ノ場合ヲ除キ本契約附表所載ノ金額ニ從ヒ年賦ニ依リ公債發行ノ日ヨリ起算シ各期日拾四日前ニ之ヲ行フモノトス

第六條 本公債發行ノ日ヨリ拾個年ヲ經過シタル後ハ何時タリトモ政府ハ本契約附表所載ノ期限ニ達セサル本公債未償還額ノ全部又ハ一部ヲ臨時ニ償還スルコトヲ得此場合ニ於テハ第貳拾年目迄ハ額面百分ノ貳半ノ割増即チ金壹百圓ニ付金壹百零貳圓五拾錢ヲ支拂ヒ第貳拾壹年目以後ハ割増ナシニ之ヲ行フコトヲ得

若シ政府カ特ニ右ノ目的ノ爲メ支那ヨリ送金シタルモノニアラサル金資金ヲ善意ニ日本ニ所有スルトキハ各期日拾四日前ニ之ヲ前記支拂ニ充ツルコトヲ得
銀行ハ本公債元利金支拂ノ費用ニ充ツル爲メ其ノ取扱金額ニ對シ毎回千分ノ貳半ノ手數料ヲ受クルモノトス

第八條 政府ハ本公債ノ元利金支拂ヲ無條件ニ保證シ本鐵道收入又ハ本公債募集金ニシテ本公債元利金支拂ニ不足ヲ告クルトキハ政府ハ他ノ財源ヨリ之ヲ補足シ期日拾四日前ニ之ヲ銀行ニ交付スヘシ

第九條 本公債ハ現在及將來ニ於テ本鐵道ニ屬スル一切ノ動産及不動産並本鐵道一切ノ收入ニ依リテ第壹位ニ擔保セラル

第拾五條第壹項ノ規定ニ基キ發行セラルヘキ公債モ亦前項ノ動産不動産及收入ニ依リ本公債ト同順位ニ於テ擔保セラル

本公債ノ擔保ハ之ヲ前貳項以外ノ債務ノ擔保ト爲スコトヲ得ス

第拾條 銀行ハ本公債全額ニ對シ銀行ニ於テ適宜定ムル額面金額ノ公債證書ヲ發行スルコトヲ得其ノ様式ハ銀行ニ於テ交通總長又ハ日本駐劄支那公使ト之ヲ協定ス公債證書ハ日支兩國語ヲ以テ之ヲ印刷シ交通總長ノ署名及交通部印ヲ印寫ス又日本駐劄支那公使ハ公債證書發行ニ先チ各證書ニ署名及官印ヲ印寫セシメ以テ公債ノ發行カ政府ノ許可ニ依ルコト及政府ヲ拘束スルコトヲ證明シ銀行モ

前項臨時償還ノ場合ニ於テハ政府ハ六個月以前ニ畫面ヲ以テ之ヲ銀行ニ通知スヘシ

臨時償還ハ本公債募集目論見書ニ定メタル普通償還抽籤ノ當日追加抽籤ヲ以テ之ヲ行フモノトス

第七條 政府ハ銀行ヲ本公債事務ノ取扱者ニ指定シタルニ付本契約附表所載ノ金額ニ從ヒ各期日拾四日前ニ督辦ヲ經テ第四條及第五條所載ノ元利金ヲ銀行ニ交付スヘシ

政府ハ第六條ニ規定セル臨時償還ノ場合ニ於テモ亦期日拾四日前ニ必要ノ元金及割増金ヲ銀行ニ交付スヘシ

前貳項ノ場合ニ於テハ政府ハ日本ニ於テ金貨ヲ以テスル交付額相當ノ上海規銀又ハ新國幣（斯ノ如キ貨幣力有効ニ確立セラレタル時ニ限ル）ヲ在上海政府ニ支拂フモノトス政府ハ支拂ノ當日又ハ期日前六個月内何時ニテモ銀行ト右爲替相場ノ取極ヲ爲スコトヲ得

若シ政府カ特ニ右ノ目的ノ爲メ支那ヨリ送金シタルモノニアラサル金資金ヲ善意ニ日本ニ所有スルトキハ各期日拾四日前ニ之ヲ前記支拂ニ充ツルコトヲ得
銀行ハ本公債元利金支拂ノ費用ニ充ツル爲メ其ノ取扱金額ニ對シ毎回千分ノ貳半ノ手數料ヲ受クルモノトス

亦本公債發行取扱者トシテ其ノ代表者ヲシテ證書ニ署名セシムヘシ

本公債證書ニシテ紛失滅失シ又ハ盜取セラレタルトキハ銀行ハ直ニ交通總長又ハ日本駐劄支那公使ニ通知シ且同證書ノ支拂停止ヲ新聞紙上ニ廣告シ並關係國ノ法律習慣ニ從ヒ便宜又ハ必要ト認ムル措置ヲ執ルヘシ右公債證書ニシテ銀行ノ定メタル期間内ニ發見セラレサルトキハ交通總長又ハ日本駐劄支那公使ハ同額ノ副證書ヲ作製シ銀行ニ交付スヘシ右ニ關スル一切ノ費用ハ銀行ニ於テ之ヲ負擔ス

第拾壹條 政府ハ本公債證書並利札及本公債元利金ノ受拂ニ關シテハ本公債期間中一切ノ公課ヲ免除ス

第拾貳條 公債募集目論見書及元利金支拂其ノ他ニ關スル詳細ノ事項ニシテ本契約三明文ナキモノハ銀行ニ於テ日本駐劄支那公使ト協定スヘシ

銀行ハ第拾參條ノ規定ニ從ヒ本契約調印次第本公債募集目論見書ヲ發行スルコトヲ得政府ハ日本駐劄支那公使ニ對シ必要ニ應シ銀行ト協力スルコト及本公債募集目論見書ニ署名スルコトヲ訓令スヘシ

第拾參條 銀行ハ工事ノ計畫並其ノ進行ノ程度及市場ノ状況ニ應シ本公債ヲ壹回ニ又ハ數回ニ分チ發行スルコトヲ得

政府手取額ハ發行手數料トシテ發行價格ヨリ額面ノ百分ノ五半ヲ控除シタルモノトス

第拾四條 本公債募集金ハ公債應募者ノ分割拂込額及其ノ期日ニ從ヒ在横濱銀行ニ於ケル本鐵道局勘定ニ繰入ルルモノトス横濱ニ於ケル該勘定殘高ニ對シテハ年參分支那ニ送金シタルモノノ殘高ニ對シテハ銀行ノ普通ノ率ニ從ヒ利子ヲ付ス本公債募集金並其ノ利子ハ其ノ中ヨリ鐵道建造中ニ於ケル本公債利子支拂及其ノ取扱手數料ニ要スル金額ヲ控除シタル後銀行ハ之ヲ保管シテ本鐵道督辦ノ指圖ヲ待ツ督辦ニ於テ金貳拾萬圓以上ヲ引出サントスルトキハ其ノ引出期日拾日前ニ之ヲ銀行ニ通知スヘシ

公債募集金ハ鐵道建造ノ進行ニ伴ヒ支拂ヲ要スル工事ノ性質及費用ノ證明書ヲ添付セル督辦及會計主任連署ノ銀行宛支拂命令ニ依リテ之ヲ引出スモノトス

建造費毎月見積高ニ對スル資金ハ督辦ノ請求次第ニ上海ニ送金セラルヘシ右送金ハ銀行之ヲ取扱ヒ本鐵道ノ用途

ニ供セラル迄在上海銀行ニ於ケル預金タルモノトス
會計主任ニハ日本人ヲ以テ之ニ充テ督辦ニ於テ銀行ノ承諾ヲ得テ之ヲ任命ス其ノ傭聘契約ハ督辦ニ於テ之ヲ定ム
會計主任ハ會計部所要内外人員表ヲ督辦ニ提出シ督辦之ニ依リテ依命ヲ行フ會計主任ハ右人員各自ノ分擔事務ヲ定ム

會計主任ハ本公債期間内督辦又ハ總辦ノ命ヲ承ケ本鐵道ニ關スル一切ノ收支ヲ管理シ且本鐵道ニ關スル支出ニ付一切ノ書類ニ總辦ト連署ス

本鐵道ニ關スル諸勘定ハ會計主任指揮ノ下ニ支那各鐵道通行簿記法ニ據リ日支兩國語ヲ以テ記帳スヘシ
鐵道局ハ其ノ營業開始後每年度終了後ニ於テ日支兩國語ヲ以テ決算報告書ヲ刊行シ請求ニ應シ之ヲ交付スヘシ
第拾五條 本公債募集金並其ノ利子ニシテ建造中ニ要スルニ不足ナルトキハ政府ハ他ノ財源ヨリ右不足額ヲ支出ス若シ尚不足ヲ告クルニ於テハ銀行ニ由リテ發行スル公債ヲ以テ之ヲ補足スヘク其ノ利子其ノ他ノ條件ハ本契約ニ於ケルト同一タルヘシ

本鐵道完成後本鐵道局勘定ニ使途ヲ有セサル預金殘高アルトキハ之ヲ第拾八條ニ規定セル公債利子準備金勘定ニ振替ヘ以テ政府カ本契約ニ依テ義務ヲ負フ支拂ノ準備トス

第拾六條 本鐵道ノ建造及管理ハ一切政府ニ於テ之ヲ行フモノトス

政府ハ本鐵道督辦壹名ヲ任命ス督辦ハ常ニ本鐵道線路所在地ニ居住シ政府ヲ代表シテ本契約ノ規定ニ依リ本鐵道ニ關スル事務ヲ行フノ全權ヲ有ス

技師長ニハ日本人ヲ以テ之ニ充テ督辦ニ於テ銀行ノ承諾ヲ得テ之ヲ任命ス其ノ傭聘契約ハ督辦ニ於テ之ヲ定ム
師長ハ督辦又ハ總辦ノ命ヲ承ケ本鐵道線路ノ測量設計及見積ヲ爲シ且一切ノ工事ヲ指揮監督シ並鐵道建造ニ必要ナル材料機械其ノ他ノ物件ノ注文ヲ爲ス

技師長ハ技術部所用内外人員表ヲ督辦ニ提出シ督辦之ニ依リテ任命ヲ行フ技師長ハ右人員各自ノ分擔事務ヲ定ム
技師長ハ督辦又ハ總辦ヨリ内外専門技術員ノ任免及其ノ事務ノ分擔ニ付必要ナル措置ヲ執ルノ權限ヲ付與セラルヘシ

本鐵道ノ各區域ハ其ノ完成スルニ從ヒ技師長ヨリ之ヲ督辦ニ引渡シ督辦ハ事情ノ許ス限り速ニ當該區域ノ運輸ヲ開始スルモノトス
督辦ハ日本人壹名ヲ運輸主任ニ任命ス運輸主任ハ督辦又ハ總辦ノ命ヲ承ケ運輸ヲ掌ル
本鐵道ノ工事完成シ技師長ノ任務終了シタル場合ニハ督辦ハ更ニ日本人壹名ヲ保線技師ニ任命シ技師長ノ職ヲ解クヘシ保線技師ハ督辦又ハ總辦ノ命ヲ承ケ鐵道ノ保存ヲ掌ル
運輸主任及保線技師ハ督辦ニ於テ銀行ノ承諾ヲ得テ之ヲ任命ス其ノ傭聘契約ハ督辦ニ於テ之ヲ定ム

第拾七條 本鐵道ヲ保護スル爲メ巡警隊ヲ設置シ警官警兵ハ共ニ支那人ヲ採用スヘク其ノ俸給費用ハ總テ鐵道建造及保線ノ費用ヨリ之ヲ支出スヘシ
前項ノ人數及金額ハ本鐵道督辦ニ於テ銀行ト協議ノ上之ヲ定ム

若シ本鐵道ヲ保護スル爲メ支那政府又ハ當該省ノ軍隊ヲ必要トスルトキハ本鐵道局ヨリ申請アリ次第直ニ其ノ手

續ヲナスヘシ

前項軍隊ノ給與等ニ關スル費用ハ支那政府又ハ當該省ニ於テ之ヲ支辦ス

第拾八條 本鐵道收入ハ遲滯ナク之ヲ銀行ニ於ケル本鐵道局勘定ニ拂込ミ場合ニ應シ定期預金又ハ當座預金トシテ其ノ利率ハ隨時銀行ト協議シテ之ヲ定ム

本鐵道營業費及保存費ハ總テ右收入ヨリ支出シ其ノ殘額ハ之ヲ本公債利子支拂並本契約附表ニ依ル元金償還ニ對スル相當準備ニ充テ尚剩餘アルトキハ政府ハ本鐵道督辦ノ決スル方法ニ從ヒ之ヲ使用スルコトヲ得ヘシ但鐵道全部開通後ハ本契約附表ニ依リ元利金ヲ支拂フニ足ル金額ヲ前記剩餘金ヨリ控除シ各期日六個月前ニ之ヲ銀行ニ預入ルヘシ

若シ鐵道收入ニシテ元利金ヲ支拂フニ足ル剩餘金ナキトキハ本契約第八條ノ規定ニ從フ

第拾九條 銀行ハ本鐵道建造中外國ヨリ輸入スヘキ材料機械其ノ他ノ物件ノ購買ヲ掌ル取扱者ヲ指定ス
右購買中其ノ重要ナルモノニ付テハ本鐵道督辦ニ於テ之ヲ入札ニ附ス取扱者ハ鐵道ノ爲メ最有利ナル條件ヲ以テ右購買ノ入札約定又ハ注文ヲ爲シ購買原價及其ノ百分ノ

五ノ取扱手數料ヲ受ク但注文及費用ノ支出ニ付テハ技師長ヨリ督辦ニ申請シ其ノ認可ヲ受ケタル後ニアラサレハ之ヲ行フヲ得ス

取扱者ハ前記手數料ノ支拂ヲ受クルニ因リ鐵道ノ建造設備ニ必要ナル一切ノ外國材料ノ購買ヲ監督シ一般市場ニ就キ價格最低ニシテ品質良好ナルモノヲ購買スヘシ右購買材料ニシテ支那ニ到着後注文明細書ニ符合セサルトキハ鐵道局ハ之ヲ拒絕スルコトヲ得ルモノトス
外國材料機械其ノ他ノ物件ヲ購買スルニ當リ其ノ品質價格同一ナルトキハ最先ニ日本品ヲ次ニ取扱者ノ推薦スル國ノモノヲ購買スヘシ

送狀及檢查人證明書ハ之ヲ督辦ニ提出シ各種ノ割戻及割引ハ鐵道局ニ歸ス

取扱者カ鐵道ノ爲メニスル購買ニ付テハ總テ製造者ノ送狀及檢查人證明書ヲ以テ證憑トナス
取扱者ニ對シテハ前記取扱手數料ノ外別ニ手數料ヲ支給セス但顧問技師ヲ聘用スル場合ニハ鐵道局ハ本鐵道局勘定ヨリ其ノ報酬ヲ支給スヘシ

若シ支那產材料及支那製品ニシテ其ノ品質價格カ日本品

又ハ他ノ外國ノ製產物ト同一ナルトキハ支那產業獎勵ノ爲メ最先ニ之ヲ購買スヘシ右購買ニ付テハ取扱者ニ取扱手數料ヲ支給セス

取扱者ハ本鐵道建造完成後ニ於テモ本公債期間中ハ鐵道局所要外國品ノ供給ニ關スル取扱事務ニ對シテ優先權ヲ有スルモノトス其ノ取扱條件ハ追テ之ヲ協定スヘシ

第貳拾條 政府ニ於テ今後有利又ハ必要ト認ムル本契約所載鐵道線路ノ支線又ハ延長線ヲ建造セントスル場合ニハ政府ハ支那ノ財源ヨリ生シタル資金ヲ以テ之ヲ爲スヘク若シ外債ニ依リ之ヲ建造セントスルトキハ銀行ニ優先權ヲ與フルモノトス右支線又ハ延長線ノ里程ハ政府之ヲ決定ス

第貳拾壹條 銀行ハ公債證書所持人ノ受托者タルモノトス從テ本公債ニ關スル事項ニツキ本鐵道局ト銀行トノ間ニ交渉ヲ爲ス場合ニ於テハ銀行ハ公債證書所持人ノ代理人タルヘシ

第貳拾貳條 本契約調印後公債募集目論見書發行前若シ市場及支那政府現存公債ノ市價ニ影響スヘキ政治上又ハ經濟上ノ事變發生シ銀行ニ於テ本契約ノ條件ニテハ本公債

第貳拾參條 銀行ハ本契約ニ依リ享有スル權利ノ全部又ハ一部ヲ再讓渡又ハ複委任ノ權利及其ノ負擔スル義務ト共ニ他ノ日本人ニ讓渡シ又ハ委任スルコトヲ得但右讓渡再讓渡又ハ委任複委任ハ本鐵道督辦ノ承認ヲ受クルコトヲ要ス

第貳拾四條 銀行ハ本公債ノ流通ニ便ナラシムル爲メ證書ニ額面金額相當ノ一定英貨額佛貨額又ハ米貨額ヲモ記載シ並日支兩國語ノ外英語又ハ佛語ヲ以テ之ヲ印刷シ且倫敦巴里又ハ紐育ヲ本公債元利金支拂地ト爲スコトヲ得銀行ハ市場ノ都合ニ依リ本公債ノ全部又ハ一部ヲ倫敦巴里又ハ紐育ニ於テ發行スルコトヲ得

第貳拾五條 本契約及附件ハ大正四年拾貳月拾六日即チ中華民國四年拾貳月拾六日大總統令ニ準據シテ調印シタル

六 満蒙鐵道借款細目交渉ニ関スル件 四五六

附件

支那政府（以下政府ト稱ス）日本國横濱正金銀行（以下銀行ト稱ス）ハ大正四年拾貳月拾七日即チ中華民國四年拾貳月拾七日ヲ以テ四鄭鐵道借款契約ヲ締結セシカ今該鐵道建造ノ速成ヲ期センカ爲メ茲ニ附件ヲ協訂シ其ノ條項ヲ定ムルコト左ノ如シ本附件内ニ記載ナキ事項ハ前記鐵道借款契約ノ規定ニ據リ之ヲ處理ス

壹 目下各國金融市場ハ歐洲戰亂ノ影響ヲ受ケ四鄭鐵道公債ヲ發行スルニ利ナラサルヲ以テ政府ハ銀行ト協議シテ銀行ヨリ規銀參百四拾萬兩ノ借入金ヲナシ四鄭鐵道ノ建造成ニ着手スヘシ

貳 本借入金ノ元利ハ四鄭鐵道借款契約第拾參條第壹項ニ依リ發行募集シタル公債ノ資金ヲ以テ優先ニ決済セラルモノノトス

前項ノ公債ハ政府ト銀行ト協議ノ上發行ニ利アリト認メタルトキハ直ニ其ノ手續ヲナスヘシ

參 本借入金ハ專ラ四鄭鐵道線路ノ建造費（土地車輛及其ノ他一切ノ設備材料ノ購買費ヲ含ム）營業費及建造中ニ於テ支拂フヘキ本借入金ノ利子ニ充ツ

大正四年拾貳月拾七日

交通總長 梁（花押）

四鄭鐵路借款合同及附件

橫濱正金銀行代表者

取締役 小田切萬壽之助（印）
(左ニ借用證書様式ヲ附ス)

借用證書様式

壹 交通部ハ支那政府ノ名義ヲ以テ橫濱正金銀行ヨリ規銀參百四拾萬兩ヲ借入レ壹回又ハ數回ニ金員ヲ授受シ別ニ領收證ヲ發行スルモノトス

貳 本借入金ニハ年七步ノ利子ヲ附シ毎回交付ノ日ヨリ起算シ半年コトニ支拂フモノトス
參 本借入金ハ大正四年拾貳月拾七日即チ中華民國四年拾シ

第壹條 本合同係根據中華民國貳年拾月五日即大正貳年拾月五日所訂借款大綱中華民國政府（以下稱政府）由財政總長交通總長與日本國橫濱正金銀行（以下稱銀行）爲銀行於中華民國四年拾貳月拾柒日即大正四年拾貳月拾柒日在北京訂立議定條款如左
第壹條 政府准銀行承辦發售五釐利息金幣借款數目係日金五百萬圓本借款日期即售票之日訂定名爲
中華民國政府五釐利息四鄭鐵路公債

第貳條 本債票進款充爲建造由四平街起至鄭家屯爲止鐵路之用此項路綫俟測勘完竣後應由督辦與銀行協定詳請交通部核准

第參條 本債票進款專充爲建造本鐵路購辦地段車輛及一切應配物料並經營行車之費及於造路期內應付債票利息之用
建造工程須於本合同簽押後六個月以内開工自實在開工之日起估計約需貳年造竣
在前開六個月限期内應由銀行將預備至多日金貳拾萬圓之款作爲銀行代墊首次出售債票進款聽候督辦或在日本存款或匯至中國以備本鐵路局提用等情知會督辦此項墊款實在

大 正 年 月 日
中華民國 年 月 日
(右漢文)

四 政府ハ本借入金ノ利子ヲ四鄭鐵道建造中ハ本借入金ヨリ完成後ハ先ツ四鄭鐵道收入ヨリ次ニ政府カ適當ト認ムル其ノ他ノ收入ヨリ期日拾四日前ニ之ヲ支拂フモノトス
五 政府ハ本借入金ノ元利支拂ヲ無條件ニ保證シ本借入金又ハ四鄭鐵道收入ニシテ本借入金元利支拂ニ不足ヲ告クルトキハ政府ハ他ノ財源ヨリ之ヲ補足シ銀行ニ交付スヘシ

シ

六 本借入金ハ四鄭鐵道公債發行以前ニ在リテハ現在及將來ニ於テ本鐵道ニ屬スル一切ノ動產及不動產並本鐵道一切ノ收入ニ依リテ第一位ニ擔保セラル
七 本借入金ハ在上海銀行ニ於ケル四鄭鐵道局勘定ニ繰入ルモノトシ其ノ殘高ニ對シテハ銀行ノ普通ノ率ニ從ヒ利子ヲ付ス督辦ニ於テ一時ニ貳拾萬兩以上ヲ引出サントスルトキハ其ノ引出期日拾日前ニ之ヲ銀行ニ通知スヘシ
八 本借入金ハ四鄭鐵道建造ノ進行ニ伴ヒ支拂ヲ要スル工事ノ性質及費用ノ證明書ヲ添付セル督辦及會計主任連署ノ銀行宛支拂命令ニ依リ之ヲ引出スモノトス
中華民國四年拾貳月拾七日

財政總長 周（花押）

提用之數並其利息均由首次出售債票進款內儘先扣除其利息常年不得過七釐

前項墊款銀行得將銀兩交付

第四條 本債票利息按票面數目定為常年五釐自出售債票之日起算每半年交付執持債票人壹次

此項利息
政府在建造本鐵路期內或由出售債票進款或由別項進款交付在其造竣後先由本鐵路進款交付次由

政府以爲合宜之別項進款交付自出售債票之日起算每半年按照本合同附表數目日期於拾四日前交付壹次

第五條 本借款以四拾年爲期自出售債票之日起算至第拾壹年起還本

此項還款應由本鐵路進款或由政府以爲合宜之別項進款除第六條所開辦法外出售債票

之日起算每年按照本合同附表數目日期於拾四日前交付壹次

第六條 由發售本債票之日起經過第拾年後無論何時若政府欲將本合同附表所載未到期之借款全數清還或欲先還若干均可照辦至期貳拾年照債票上數目加價壹百分之貳半

即係每壹百圓還壹百零貳圓錢五拾錢第貳拾年後無須加價如遇有前開臨時償還時

政府應於六個月以前用公文知會銀行

第七條 政府既允銀行爲經理本借款之代表須將第四條及第五條所載本利照本合同附表數目日期拾四日前經由督辦交付銀行

如遇有第六條所載臨時償還時

政府亦須將應還之本及加價先期拾四日前交付銀行前貳項所開應付還款項須由

政府按照足敷在日本交還日幣之數核算用上海規銀及新國幣(一俟此項國幣行有實效)交付在上海之銀行其匯價於付款當日與該銀行訂定或可於六個月以內無論何時隨便訂定如或

政府在日本實在存有日本金幣果係並非專爲前開付還起見匯去者則於先期拾四日前可用此項存款付還本利

銀行應照經手款數每次於壹千分計收貳分五用費作爲經理本借款本利之費

政府在日本實在存有日本金幣果係並非專爲前開付還起見匯去者則於先期拾四日前可用此項存款付還本利

第八條 本借款債票本利

政府確保全還若本鐵路進項及本債票進款不敷付還本利之數由政府設法以別項款項補足按期拾四日前交付銀行

第九條 本借款以現在及將來屬本鐵路所有一切動產不動產及各項進款作爲頭次抵押按照第拾五條第壹項所訂立之借款亦以前項所開動產不動產及進款作爲與本借款同等之抵押

本借款之抵押不得作爲前開貳項以外債務之抵押

第十條 本借款全數准銀行印發債票其數目由銀行酌定其式樣由銀行商同交通總長或中國駐日公使酌定債票用中日文字印刷交通總長所簽姓名及交通部印均摹刻於上中國駐日

公使於債票未發之前須逐張將其所簽姓名及其關防摹刻於上以證

政府允准及擔認發售此項債票銀行亦委代表人在債票上加上以證

倘本借款發出之債票或遺失或經毀損或被竊銀行隨即知會交通總長或中國駐日公使由該公使飭知銀行在報紙上刊登告白聲明已失之票不能憑以取款並按照關係國例章設法辦理倘所失之票已過銀行所定期限仍未覓回交通總長或中國

政府允准及擔認發售此項債票銀行亦委代表人在債票上加上以證

倘本借款發出之債票或遺失或經毀損或被竊銀行隨即知會

交通總長或中國駐日公使由該公使飭知銀行在報紙上刊登告白聲明已失之票不能憑以取款並按照關係國例章設法辦理倘所失之票已過銀行所定期限仍未覓回交通總長或中國

六 满蒙鉄道借款細目交涉ニ関スル件 四五六

四八四

欵存放聽候督辦提交用督辦提交用欵項若過貳拾萬圓之數應於用欵前拾日知照銀行

此項債票進欵隨本鐵路工程進行所需可隨時提用惟須核照督辦及總會計向銀行開具會同簽字之發欵憑單並須將此欵所用之工程性質及價值另單聲明緣由方可交欵按照預行估定之每月應需造路用欵一俟由督辦知會銀行即當匯至上海此項匯欵歸銀行經理其在爲鐵路事宜提用以前作爲在上海銀行存款

總會計以日本國人員充當由督辦預先商明銀行同意由督辦任用並訂立聘用合同

所有會計處應用之華洋人員由總會計開列額缺數目清單呈請督辦核准由督辦充至各人員分管事務應由總會計派定本借欵期內該總會計承督辦及總辦命令專司本鐵路一切收支各欵並關於用欵各單據同中國總辦簽字

關於本鐵路一切賬目用中日文字按照中國各鐵路通行簿記法由總會計指揮登記

鐵路局開始營業以後每屆結賬年度用中日文刊印決算報告書以便任人取閱

第拾五條 所有本債票進欵並生發之利息除將造路期內應付

債票利息扣除外設有不敷修造鐵路以及裝配所需其不敷之數則應先由政府別項進欵提付如仍有不敷之數則商由銀行再行發售債票補足其利息並條件仍按本合同辦理設於本鐵路全告竣後鐵路項下尚有未經指定作爲何項支用之存欵剩餘則應移入後詳第拾八條內載借款利息公積項下以備充

政府按照本合同認還之欵

第拾六條 本鐵路建造工程以及管理一切事宜全歸政府辦理

政府簡派督辦壹員該督辦常川駐在工所並代表政府享有執行本合同範圍內之事權

總工程司應以日本國人員充當但須由督辦預先商明銀行同意由督辦派充並訂立聘用合同該總工程司應聽督辦或總辦命令辦理勘路籌畫繪圖估計等事並指揮監管一切工程及訂購材料機器等一切物件

總工程司須將工程處應用之華洋員開列額缺數目清單呈請督辦核准由督辦選充交總工程司調遣至鐵路上派用專門華洋人員分派各該員應辦各事以及辭退

各該員應由督辦及總辦交由該總工程司辦理

待本鐵路分段告成每段即由總工程司交與督辦隨時酌量情形開車營業

由督辦選用壹日本國人員充當行車總管遵照督辦或總辦指揮命令辦理行車事宜

全路工程告竣後總工程司應辦事務將畢時由督辦用壹日本國人員充當養路工程司即毋庸再用總工程司養路工程司遵照督辦或總辦指揮命令辦理養路事宜

行車總管以及養路工程司均預先商明銀行同意由督辦任用並訂立聘用合同

第拾七條 保護全路應設巡警隊警官警兵均用華人其薪餉經費概由築路養路項下開支其額數由督辦會商銀行定之

設或保護鐵路需用中國國家或該省軍隊時一經該鐵路局聲請即當照辦惟兵餉等項仍應由中國國家或該省照發

第拾八條 所有本鐵路進欵隨時交銀行收入本鐵路項下不得稍涉遲延酌視情形定爲長存或短存其利息隨時會同銀行約定

所有本鐵路營業養路各費均由此項進欵項下支付倘此項進欵除支付上開各費暨備充付本借款債票常年利息與本合同

附表內所列到期應還之本外仍有盈餘政府按照督辦所定辦法聽憑由督辦撥用但在全路告成開車營業之後須將本合同附表所載應付還本借款本息由該盈餘內照數劃扣於到期六個月前交存銀行如遇鐵路進項並無盈餘足敷付還本息之欵應即按本合同第八條辦理

所有購買前項各物件內其係繫要者由督辦招人投標該經理人購買該物件時須以與鐵路最爲相宜之條件經辦投標批約或訂購該經理人除領原買賣價外按照該價每百分取經理費五分惟訂購材料及支取費用非由總工程司呈督辦核准不得照行

該經理人既得上文所詳之經理費自應監購鐵路所需建造裝配各外洋材料並須在各國市場選擇價值最廉而質料最佳者方行購買若材料運至中國有與原單不符者鐵路局得拒不收貨當購買外國材料機器以及各項物件時質料及價值較與他國所產者一律相同應先儘由日本購買次及由經理人所推薦之國之貨

所有原賣單及驗單均呈督辦查核所有各項回用扣頭均歸還入鐵路項下

所有經理人爲鐵路事宜購買各材料須有製造廠原賣單並驗單爲據

該經理人除得上文所詳經理費外不給別項用費惟遇有聘用工程顧問人員時鐵路局須由鐵路項下提給酬資

中國材料及經在中國製造之貨物若質料價值與日本或他外洋材料相同自應先儘購買藉以鼓勵中國工藝但購買中國材料時不給經理人經理費用

本鐵路全工告竣後其在本借款期內關於經理鐵路局所需外國貨物之事仍應先儘經理人經理購買至經理章程應日後再行酌定

第貳拾條 政府將來或以爲有益或以爲必需擬建造聯屬本合同內所載鐵路之枝路或延展線路應由政府以中國款項自行修造如須用外國資本則先儘與銀行商辦其枝路或延展線路數長短由

政府自行訂定

第貳拾壹條 銀行即作爲執持債票人之受託人凡嗣後關於本借款事宜本鐵路局與銀行互相交涉時銀行即以執持債票人

之代理人自居

第貳拾貳條 本借款合同簽字後招帖未發之先倘遇有發生關於政治上或經濟上之事故以致金融市面以及

政府已發之債票市價頗受影響在銀行之意見以爲本債票未能按照本合同條款發售通暢政府應准銀行將本合同內所訂條款展期緩辦惟所展之限期屆時彼此商定若訂明之期限內仍不能發售即將本合同作廢遇有此項情節

政府除將本合同第參條所載熟款並其核算利息一併清還外不給他項酬費

第貳拾參條 銀行可將按照本合同應享之權利及責任全行或分別交與他日本國人接辦或再交代理人代辦其接辦代辦應商請督辦核准

第貳拾四條 銀行爲本借款債票易於流通起見得於債票上按照此票面數目核與英幣法幣或美幣相當之定數一併印列並用中日文字外另用英文及法文印刷且以倫敦巴黎及紐約作為付還本借款本息之地

銀行得將本借款債票之全部或一部分在倫敦巴黎及紐約發售

第貳拾五條 本合同及附件係遵中華民國四年拾貳月拾陸日

即大正四年拾貳月拾陸日

大總統令簽定其

大總統令業由外交部正式照會

日本駐北京公使訖

第貳拾六條 本合同繕寫中日文各四份

政府存各參份銀行存各壹份於解釋文義如有疑義以日文爲

四鄭鐵路借款日金五百萬圓五釐息四拾年期分年付息還本表

年 次

付

息

還

本

已還原本之數

尚欠原本之數

中華民國四年十二月拾柒日

財政總長 周(花押)

交通總長 梁(花押)

大正四年十二月拾柒日

橫濱正金銀行代表

取締役 小田切萬壽之助(印)

| | | | | | | | | | | | | | | | | |
|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|
| 第拾五年 | 第一年 | 第壹年 | 第貳年 | 第三年 | 第四年 | 第五年 | 第六年 | 第七年 | 第八年 | 第九年 | 第拾年 | 第拾壹年 | 第拾貳年 | 第拾參年 | 第拾肆年 | 第拾五年 |
| 九萬圓 | 八萬六千圓 | 八萬貳千圓 | 八千九百圓 | 八千七百圓 | 八千五百圓 | 八千五百圓 | 八千五百圓 | 八千五百圓 | 八千五百圓 | 八千五百圓 | 七萬八千圓 | 七萬六千圓 | 六萬圓 | 六萬圓 | 六萬圓 | 六萬圓 |
| 參拾九萬六千圓 | 參拾八萬六千圓 | 參拾七萬六千圓 | 參拾六萬六千圓 | 參拾五萬六千圓 | 貳拾五萬圓 | 貳拾五萬圓 | 貳拾五萬圓 | 貳拾五萬圓 | 貳拾五萬圓 | 貳拾五萬圓 |
| 貳拾參萬四千七百圓 | 貳拾四萬一千圓 | 貳拾四萬一千圓 | 貳拾四萬一千圓 | 貳拾四萬一千圓 | 貳拾四萬一千圓 | 貳拾四萬一千圓 |

六 满蒙鉄道借款細目交渉三関スル件 四五六

四八八

| | | |
|--------|-------------|-----------|
| 第拾六年 | 貳拾參萬貳百圓 | 九萬五千圓 |
| 第拾七年 | 貳拾貳萬五千四百五拾圓 | 五拾九萬壹千圓 |
| 第拾八年 | 貳拾貳萬四百五拾圓 | 四百四拾萬九千圓 |
| 第拾九年 | 貳拾壹萬五千貳百圓 | 四百參拾萬四千圓 |
| 第貳拾年 | 貳拾貳萬九百七百圓 | 四百拾九萬四千圓 |
| 第貳拾壹年 | 貳拾萬參千九百五拾圓 | 四百七萬九千圓 |
| 第貳拾貳年 | 拾九萬七千九百五拾圓 | 四百九拾五萬九千圓 |
| 第貳拾參年 | 拾九萬壹千六百圓 | 三百六拾九萬九千圓 |
| 第貳拾四年 | 拾八萬四千九百五拾圓 | 三百五拾五萬九千圓 |
| 第貳拾五年 | 拾七萬七千九百五拾圓 | 三百四拾壹萬貳千圓 |
| 第貳拾六年 | 拾七萬六百圓 | 三百八拾伍萬八千圓 |
| 第貳拾七年 | 拾六萬貳千九百圓 | 三百九拾萬壹千圓 |
| 第貳拾八年 | 拾五萬四千八百圓 | 三百四拾八萬八千圓 |
| 第貳拾九年 | 拾四萬六千參百圓 | 三百七八萬八千圓 |
| 第貳拾二十年 | 拾參萬七千四百圓 | 三百九拾四萬貳千圓 |
| 第貳拾廿一年 | 拾貳萬八千五拾圓 | 四百一拾八萬九千圓 |
| 第貳拾貳年 | 拾壹萬八千貳百圓 | 四百二拾八萬九千圓 |
| 第貳拾參年 | 拾萬七千八百五十圓 | 四百三拾八萬九千圓 |
| 第貳拾四年 | 九萬七千圓 | 四百四拾八萬九千圓 |
| 第貳拾五年 | 八萬五千六百圓 | 四百五拾八萬九千圓 |
| 第貳拾六年 | 七萬參千六百圓 | 四百六拾八萬九千圓 |
| 第貳拾七年 | 六萬參百五十圓 | 四百七拾八萬九千圓 |
| 第貳拾八年 | 四萬六千參百五拾圓 | 四百八拾四萬九千圓 |
| 第貳拾九年 | 參萬壹千參百五拾圓 | 四百九拾四萬九千圓 |
| 第貳拾二十年 | 壹萬五千八百五拾圓 | 四百零拾五萬九千圓 |

附 件

中華民國政府以下稱與日本國橫濱正金銀行以下稱於中華民國政府爲政府爲銀行

國四年拾貳月拾柒日即大正四年拾貳月拾柒日訂立四鄭鐵路借款合同茲爲將該鐵路迅速建造起見特此商訂附件議定條款如左至於本附件內未訂條款須照前開鐵路借款合同所訂辦法辦理

壹 現在因各國金融市面受歐洲戰事影響認爲發售四鄭鐵路債票不利

政府與銀行協商向銀行借規銀參百四拾萬兩開始建造四鄭鐵路

貳 本借款之本息應由四鄭鐵路借款合同第拾參條第壹項之發售債票進款儘先還清

前項所開債票

政府與銀行協商認爲有利時即行發售

參 本借款專充爲建造四鄭鐵路購辦地段車輛及一切應配物

料並經營行車之費及於造路期內應付本借款利息之用
鐵路進款次由

四 本借款利息

政府在建造四鄭鐵路期內由本借款在其造竣後先由四鄭鐵

大正四年拾貳月拾柒日

中華民國四年拾貳月拾柒日

財政總長 周(花押)

交通總長 梁(花押)

取締役 小田切萬壽之助(印)

六 满蒙鉄道借款細目交渉ニ関スル件 四五六

四九〇

（附借據式様）
借據式様

壹 交通部以中華民國政府名義借用橫濱正金銀行規銀參百

四拾萬兩或壹次或分數次交收款項另發收據爲憑

貳 此項借款按年七厘計息自每次交款之日起算每半年付息

壹次

參 此項借款須照中華民國四年拾貳月拾柒日中華民國政府
與橫濱正金銀行訂立四鄭鐵路合同附件辦法辦理

中華民國 年 月 日

大 正 年 月 日

（附屬書二）

写

四鄭鐵道借款契約往復文書

四鄭鐵道借款契約往復文書目錄

甲 銀行書面、四鄭線以外ノ諸線路ニ關スル件

甲二 甲號書面三對スル交通部回答

乙 銀行書面、手數料ニ關スル件（借款契約第拾參條參

乙二 乙號書面三對スル交通部回答

辛二 辛號書面ニ對スル交通部回答
壬 交通部書面、軍隊ノ輸送及貨銀ニ關スル件
壬二 王號書面三對スル銀行回答

甲 敬啓者此次敝行與

大部磋商四鄭鐵路借款合同案第貳條第貳項載有政府允由鄭
家屯起至洮南府之鐵路由開原起至海龍城之鐵路及由吉長鐵
路長春車站起貫越南滿洲鐵路至洮南府之鐵路亦應用銀行承
辦發售債票進款建造其詳細條款按照本合同條款日後再行協
定又該合同案第貳拾條載倘將來政府籌畫建造由洮南起至承
德府城鐵路及由海龍府起至吉林省城鐵路如須用外國資本則
先儘與銀行商辦等語

大部委員諸君均以前開條款既在借款修造鐵路豫約之辦法大
綱言明應由四鄭鐵路借款合同刪除極力主張敝行亦當照辦惟
查大綱所定各路借款前經由日本政府指定敝行與
貴國商議一面由日本公使將此事知照
貴國外交部在案倘此時只將前開條款削除而於其四鄭以外之
各路借款建造等事不設何等辦法則首尾不接結束不全緣此豫
於削除該條款之前特修函奉達

丙 銀行書面會計主任技師長等備聘契約ニ關スル件（借款
契約第拾四條參照）

丙二 丙號書面ニ對スル交通部回答

但シ契約写ハ追補ヲ要ス

丙三 交通部書面、丙二但書ノ浦信鐵道技師長備聘契約写
追補ノ件（註）

丁 交通部書面、局長任命督辦事務取扱ニ關スル件（借款
契約第拾六條參照）

丁二 丁號書面ニ對スル銀行回答

戊 交通部書面、鐵道收入預入場所ニ關スル件（借款契約
第拾八條參照）

戊二 戊號書面ニ對スル銀行回答

己 交通部書面、鐵道收入預入貨幣種類ニ關スル件（借款
契約第拾八條參照）

己二 己號書面ニ對スル銀行回答

庚 交通部書面、鐵道材料等輸入稅免除ニ關スル件

庚二 庚號書面ニ對スル銀行回答

辛 銀行書面歐米ニ於テ公債元利支拂及公債發行ニ關スル
件（借款契約第貳拾四條參照）

大正四年拾貳月拾七日
 橫濱正金銀行代表
 取締役 小田切萬壽之助（印）
 甲二
 遷復者接准

貴銀行大正四年拾貳月拾柒日來函稱此次敝行與大部磋商四
鄭鐵路借款合同案第貳條第貳項載有政府允由鄭家屯起至洮
南府之鐵路由開原起至海龍城之鐵路及由吉長鐵路長春車站
起貫越南滿洲鐵路至洮南府之鐵路亦應用銀行承辦發售債票
進款建造其詳細條款按照本合同條款日後再行協定又該合同
案第貳拾條載倘將來政府籌畫建造由洮南起至承德府城鐵路
及由海龍府起至吉林省城鐵路如須用外國資本則先儘與銀行
商辦等語大部委員諸君均以前開條款既在借款修造鐵路豫約

之辦法大綱言明應由四鄭鐵路借款合同刪除主力主張敝行亦當照辦惟查大綱所定各路借款前經由日本政府指定敝行與貴國商議一面由日本公使將此事知照貴國外交部在案倘此時只將前開條款削除而於其四鄭以外之各路借款建造等事不設何等辦法則首尾不接結束不全緣此豫於削除該條款之前特修無函奉達大部凡關於大綱所開四鄭以外之各路借款建造一事將來敝行自當隨時揆度情形按照前開條款辦法商與大部定議以符大綱而全要工似此辦法想必為大部所諒俯望迅賜覆音允為照辦以便結局無任盼禱之至等因查四鄭鐵路現在既由貴國政府致函外交部稱

貴銀行借款辦理所有豫約大綱規定之四鄭以外各線既由貴國政府借款現已照辦以便結局無任盼禱之至等因查四鄭鐵路現在既由貴國政府致函外交部稱

貴銀行願充此項資本家等因將來本部自可按照豫約辦法大綱

與貴銀行商酌辦理相應函復

查照可也此復

正金銀行

中華民國四年拾貳月拾柒日

敬啓者此次敝行與

即希查照示復為荷等因查浦信鐵路借款合同第拾參條所載五分半之用費原議印花稅等一切費用均包括在內將來本部如對於承辦浦信鐵路借款公司於五分半之用費以外以發售債票用費名目增加給與致溢出於第拾參條所開五分半以上所有承辦四鄭鐵路借款之銀行自應一律照例增給即希查照為荷此復

正金銀行

中華民國四年拾貳月拾柒日

敬啓者此次將四鄭鐵路借款合同細目案敝行與

大部磋商會議幾費參月所有多數條款現經双方同意茲查該合

同原案第拾四條關於總會計聘用合同及第拾六條關於總工程司行車總管養路工程司聘用合同各條款內均載有與銀行商定五字在敝行一面實係緊要屢於會議詳細說明諒已在明鑒之中而

大部委員諸君均籍以浦信無此規定為理由迄今未能解決此項五字敝行並非故意固執敝行本願擬照浦信鐵路聘用合同一律辦理而在

大部亦允照辦並將該合同抄示則此問題似乎自可解決所有與銀行商定等語亦可刪除倘或浦信總會計聘用合同未經訂立則

大部磋商四鄭鐵路借款合同第拾參條第貳項關於銀行發行債票用費五分半係按照浦信鐵路借款合同第拾參條辦理茲為豫防疑義融洽意見起見將來大部對於承辦浦信鐵路借款公司於五分半以上所有承辦四鄭鐵路借款之銀行亦應一律援例增給即希承辦四鄭鐵路借款之銀行亦應一律援例增給即希查照示復為荷敬呈

交通部

横濱正金銀行代表

取締役 小田切萬壽之助(印)

大正四年拾貳月拾七日

乙二

逕復者接准

貴銀行大正四年拾貳月拾柒日來函稱此次敝行與大部磋商四鄭鐵路借款合同第拾參條第貳項關於銀行發行債票用費五分半係按照浦信鐵路借款合同第拾參條辦理茲為豫防疑義融洽意見起見將來大部對於承辦浦信鐵路借款公司於五分半之用費以外以發售債票用費名目增加給與致溢出於第拾參條所開五分半以上所有承辦四鄭鐵路借款之銀行亦應一律援例增給

自應準據總工程司聘用合同辦理至於行車總管及養路工程司聘用合同事同一律亦應照浦信辦理倘或該鐵路未訂此等合同將來浦信先訂四鄭自當照浦信訂定如浦信未訂以前四鄭欲訂此項合同時可將與浦信情形相近之鐵路聘用合同作為標準秉公議定此為兩便務祈
大部允諾上開辦法並將前開合同一齊
抄示以便此項問題圓滿了局無任盼禱之至特此佈達鴻候
敬音敬呈

交通部

橫濱正金銀行代表

取締役 小田切萬壽之助(印)

大正四年拾貳月拾七日

丙二

逕復者接准

貴銀行大正四年拾貳月拾柒日來函稱此次將四鄭鐵路借款合同細目案敝行與大部磋商會議幾費參月所有多數條款現經雙方同意茲查該合同原案第拾四條關於總會計聘用合同及第拾六條關於總工程司行車總管養路工程司聘用合同各條款內均載有與銀行商定五字在敝行一面實係緊要屢於會議詳細說明

諒已在明鑑之中而大部委員諸君均籍以浦信無此規定爲理由迄今未能解決此項五字敝行並非故意固執敝行本願擬照浦信鐵路聘用合同一律辦理而在大部亦允照辦並將該合同抄示則此問題似乎自可解決所有與銀行商定等語亦可刪除倘或浦信總會計聘用合同未經訂立則自應準據總工程司聘用合同辦理

至於行車總管及養路工程司聘用合同事同一律亦應照浦信辦理倘或該鐵路未訂此等合同將來浦信先訂四鄭自當照浦信訂定如浦信未訂以前四鄭欲訂此項合同時可將與浦信情形相近之鐵路聘用合同作爲標準秉公議定此爲兩便務祈大部允諾上開辦法並將前開合同一齊抄示以便此項問題圓滿了局無任盼禱之至特此佈達鵠候覆音等因查

貴銀行所開各節本部自可允照辦理惟浦信鐵路現在尚未聘定總會計並無此項合同相應將聘用總工程司合同壹件抄送備閱可也此復

正金銀行

中華民國四年拾貳月拾柒日

丙三

按照壹千九百拾參年拾壹月拾四號中國政府由財政交通兩部總長及政府特派員與中英公司所訂建築由津浦鐵路南段至京

漢鐵路之信陽站之鐵路借款合同本訂明由中國政府派督辦壹員駐紮工次並由督辦先行商允中英公司選擇壹英國籍人充當總工程司今中英公司對於督辦所選之總工程司表示贊同於一千九百拾四年四月貳拾貳日由浦信鐵路督辦沈雲沛君（以後概稱督辦）與鮑恩（以後概稱訂立合同如左）

壹 督辦派鮑恩爲浦信鐵路正路及枝路之總工程司按照本合同之條件辦理一切業經該總工程司允於就聘

貳 聘用總工程司由簽訂合同之日起除去本合同第八第九條之規定外其期限以滿參年爲度屆期或滿期之後督辦或其代表可於參個月之前具函知照督辦或代表將此合同作廢倘本合同將來係依

此條例作廢而總工程司即行遄返英國則督辦或局長由鐵路項下給總工程司英金 銀作爲回國川資

參 總工程司須遵照借款合同第拾六條執行職務

四 總工程司如無督辦局長或其代表之允許不得託故擅離職

守須以全力專辦鐵路之事及極力振興鐵路之利益並不得直接或間接自己或他人辦理他項職業

五 總工程司與中國官吏接洽時須以禮遇凡一切於鐵路前途有關係之事件尤應謹守秘密公司爲執掌債票人之受託人所

有工程進行及與執掌債票人之利益有關係之事件總工程司

可告之公司惟不得將鐵路事務直接或間接面告或函告與鐵路並無關係之人除去鐵路局及公司或該兩路之代理人隨時

詢問事件總工程司可據情答復外並不得直接或間接刊登或

洩漏鐵路之一切消息

六 簽訂本合同之後如有與地方官接洽之事發生總工程司不得直接與地方官接洽惟須報告局長或其代表由局長或代表與地方官商辦

七 總工程司須遵守本合同條件謹慎從公在其供職時期之內

每年由路局給豫薪金 銀由簽訂本合同之日起算至停止職務之日爲止按月攤給每屆月底在中國支付至總工程司之房租夫馬費以及出差一切費用由路每月另給 元並由路局給以相當之住房

八 倘總工程司違背或不守本合同條件或並非因病不能履行

本合同條件督辦局長或其代表則可停止該總工程司之職務

並不給予回國川資惟倘總工程司患病逾四星期之久爲調養

病體起見立即返國則督辦局長或其代表仍須發給川資

九 在工程進行時期無論何時督辦局長或其代表可於六個月之前函知總工程司將本合同作廢或不先期知照給予六個月之

中華民國四年拾貳月拾柒日

敬復者頃接

丁二

倘有疑義以英文爲準

正金銀行

中華民國四年拾貳月拾柒日

敬復者頃接

丁二

大部民國四年拾貳月拾七日函開查四鄭鐵路借款合同第拾六

條内開政府簡派督辦壹員該督辦常川駐在工所並代表政府享
有執行本合同範圍內之事權等因查四鄭鐵路現在甫經開辦當
由交通部委派局長壹員執行督辦事宜即希查照爲荷等語敝行
並無異議相應函復

大部查照可也敬復

交通部

横濱正金銀行代表

取締役 小田切萬壽之助(印)

大正四年拾貳月拾七日

戊

逕啓者查四鄭鐵路借款合同第拾八條第壹項稱所有本鐵路進
款隨時交銀行收入本鐵路項下等因此條所稱銀行係指何處銀
行而言即希

示覆爲荷此致

正金銀行

中華民國四年拾貳月拾柒日

戌二

敬復者頃接

大部民國四年拾貳月拾七日來函內開查四鄭鐵路借款合同第

己二

中華民國四年拾貳月拾柒日

正金銀行

中華民國四年拾貳月拾柒日

己

逕啓者查四鄭鐵路借款合同第拾八條第壹項稱所有本鐵路進
款隨時交銀行收入本鐵路項下不得稍涉遲延酌視情形定爲長
存或短存其利息隨時會同銀行酌定等因查東省本國貨幣尚未
統一所有鐵路局與銀行存款付款應有一定之本位並須確定換
算方法將來應如何辦理之處即希

示覆爲荷此致

正金銀行

中華民國四年拾貳月拾柒日

己一

貴銀行同意完納即祈

查照是荷此致

正金銀行

中華民國四年拾貳月拾柒日

庚二

敬復者接准

中華民國四年拾貳月拾柒日

庚二

敬復者接准

中華民國四年拾貳月拾柒日

庚二

大部民國四年拾貳月拾七日函開准貴銀行提出之四鄭鐵路借
款合同草案第拾九條有政府允本鐵路局所需各項材料機器什
物應豁免關稅釐金及其他一切捐項等語查豁免稅釐捐項於鐵

路不無裨益惟恐與財政部現行章程或有抵觸是以未便即行允
許擬將此條刪去將來由本部另行設法辦理萬一不能達豁免之

目的則非本部所能主持仍希貴銀行同意完納即祈查照是荷等
因敝行並無異議即請

查照可也敬復

交通部

横濱正金銀行代表

取締役 小田切萬壽之助(印)

貴銀行提出之四鄭鐵路借款合同草案第拾九條有政府允本鐵

路局所需各項材料機器什物應豁免關稅釐金及其他一切捐項

等語查豁免稅釐捐項於鐵路不無裨益惟恐與財政部現行章程
或有抵觸是以未便即行允許擬將此條刪去將來由本部另行設

法辦理萬一不能達豁免之目的則非本部所能主持仍希

六 满蒙鉄道借款細目交渉三閥スル件 四五六

敬啓者查四鄭鐵路借款合同第貳拾四條第壹項開銀行爲本借款票易於流通起見得於債票上按照此票面數目核與英幣法

幣及美幣相當之定數一併印列並用中日文字外另用英文及法文印刷且以倫敦巴黎及紐約作爲付還本借款本息之地又第貳項開銀行得將本借款債票之全部或一部分在倫敦巴黎及紐約發售等語倘將來遇有實行前開貳項所載之事本合同內有關係之各條款必須更改即指該合同內所有日本金幣改爲英鎊又在

第七條第參項之在日本交還日幣之數改爲在有英國交還英鎊之數又該條第四項之在日本實在存有日本金幣改爲英鎊又在

公使第拾四條第壹項之橫濱改爲倫敦等類除此等事項之外無庸更改如在巴黎及紐約等處發售債票亦應按照在英國發售債

票之例一律辦理相應函達大部請爲

查照函覆爲荷敬呈
交通部
大正四年拾貳月拾七日

橫濱正金銀行代表
取締役 小田切萬壽之助(印)

正金銀行
中華民國四年拾貳月拾柒日

壬 遷啓者此次四鄭鐵路現在借用

貴銀行款項辦理將來

貴銀行發售債票之進款辦理已經議定在案查東省情形與別處不同將來四鄭鐵路應儘先運載中國軍隊或軍需品其運價均依中國各借款鐵路通行章程並照該路將來所定價表減收半價即希

查照爲荷此致

正金銀行
中華民國四年拾貳月拾柒日

壬二 啓復者接

大部民國四年拾貳月拾七日函開此次四鄭鐵路現在借用貴銀

行款項辦理將來由貴銀行發售債票之進款辦理已經議定在案

查東省情形與別處不同將來四鄭鐵路應儘先運載中國軍隊或

軍需品其運價均依中國各借款鐵路通行章程並照該路將來所

定價表減收半價即希查照爲荷等因敝行允照辦理相應函復

大部民國四年拾貳月拾七日函開此次四鄭鐵路現在借用貴銀

行款項辦理將來由貴銀行發售債票之進款辦理已經議定在案

查東省情形與別處不同將來四鄭鐵路應儘先運載中國軍隊或

軍需品其運價均依中國各借款鐵路通行章程並照該路將來所

定價表減收半價即希查照爲荷等因敝行允照辦理相應函復

大部民國四年拾貳月拾七日函開此次四鄭鐵路現在借用貴銀

行款項辦理將來由貴銀行發售債票之進款辦理已經議定在案

查東省情形與別處不同將來四鄭鐵路應儘先運載中國軍隊或

軍需品其運價均依中國各借款鐵路通行章程並照該路將來所

定價表減收半價即希查照爲荷等因敝行允照辦理相應函復

大部民國四年拾貳月拾七日函開此次四鄭鐵路現在借用貴銀

行款項辦理將來由貴銀行發售債票之進款辦理已經議定在案

查東省情形與別處不同將來四鄭鐵路應儘先運載中國軍隊或

軍需品其運價均依中國各借款鐵路通行章程並照該路將來所

辛二 還復者接准

貴銀行大正四年拾貳月拾柒日來函內開查四鄭鐵路借款合同第貳拾四條第壹項開銀行爲本借款票易於流通起見得於債

票上按照此票面數目核與英幣法幣及美幣相當之定數一併印

列並用中日文字外另用英文及法文印刷且以倫敦巴黎及紐約

作爲付還本借款本息之地又第貳項開銀行得將本借款債票之

全部或一部分在倫敦巴黎及紐約發售等語倘將來遇有實行前

開貳項所載之事本合同內有關係之各條款必須更改即指該合

同內所有日本金幣改爲英鎊又在第七條第參項之在日本交還

日幣之數改爲在英國交還英鎊之數又該條第四項之在日本實

在存有日本金幣改爲在英國實在存有英鎊第拾條及第拾貳條

之中國駐日公使改爲中國駐英公使第拾四條第壹項之橫濱改

爲倫敦等類除此等事項之外無庸更改如在巴里及紐約等處發

售債票亦應按照在英國發售債票之例一律辦理相應函達大部

請爲查照函覆爲荷等因若將來遇有合同第貳拾四條事項本部

應按照

來示所開各節辦理此復即希

查照可也此致

查照可也啓呈
交通部
橫濱正金銀行代表
取締役 小田切萬壽之助(印)

大正四年拾貳月拾七日

註 右往復文書ノ中丙三ニ付テハ左掲附記參照
(附 記)

大正四年十二月二十一日

第一四七号

(十二月二十二日接受)

橫濱正金銀行

總支配人心得代理 武 内 金 平(印)

外務大臣男爵 石井菊次郎殿

拝復左記事項ニ關シ別紙写ノ通り在北京弊行小田切取締役ヨリ報告有之候ニ付茲ニ供御内覽候

四鄭鐵道借款契約附屬往復文書ニ闋スル件
(別 紙)

写
頭第4／三百八号

大正四年十二月十五日

六 満蒙鉄道借款細目交渉三閥スル件 四五六

五〇〇

於北京支店

取締役 小田切萬壽之助

本店

頭取 井上準之助殿

四鄭鉄道借款契約附屬往復文書三閥スル件

去十三日附頭第4／三百七号公信ヲ以テ四鄭鉄道借款二閥

スル契約書類印本及御送付候間既ニ御査収相成候事ト存候右ノ中往復文書綴丙ニ附屬スベキ浦信鉄道技師長傭聘契約写文ハ當時交通部ヨリ送付ヲ受ケサリシ為印刷漏レト

ナリ居候處今回同部ヨリ受取リノ上之ヲ印刷ニ附セシヲ以テ茲ニ及御廻付候間御入手ノ上ハ前記丙ニノ次ニ御補訂相成候様致度尚同時ニ同書面綴ニ添付スヘキ目録印本序ヲ以テ併テ及御送付候右目録ノ記号及書類ノ順序ハ書面整理ノ目的ヲ以テ當方限リ勝手ニ排置記入セシモノナレハ左様御含置相成度此段申進候

敬具

事項七 満洲鉱山関係雑纂

四五七 一月四日 在中国日置公使ヨリ
加藤外務大臣宛

新邱炭坑二分割問題ニ閥スル措置ハ鉱区選定

終了後ト致度旨上申ノ件

附屬書 大正三年十二月三十一日附孫外交總長ヨリ日置

公使宛返翰写

新邱炭坑二分割ニ閥スル件

(一月十三日接受)

機密第三号

大正四年一月四日

在支那

特命全權公使 日 置 益(印)

外務大臣男爵 加藤高明殿

新邱炭坑二公司分割ニ閥スル件

本件ニ關スル農商部主張ノ行懸ニ對シ小幡代理公使ヨリ正式ニ不承諾ノ旨外交部へ申送リタル儀ハ客年十二月十三日

附機密第五二七号往信中段ニ申進候通りノ次第ノ処右ニ對シ同部ヨリハ農商部へ移牒ノ結果本件ハ既ニ出願人周圭璋ヨリ二公司ニ分割ノ旨届出アリタルニ付第一区鉱務監督署

写

「之ニテ差支ナン故ニ特ニ訓令ヲ發セサルコトトセリ」

(附屬書)

孫外交總長ヨリ日置公使宛返翰

逕復者日商大倉請開採新邱煤礦事前准十二月四日

七 滿洲鉱山關係雜纂 四五七

五〇一